

ふるさと加東の道標・道路元標

— 道標からふるさとの「道」の歴史を考える —

◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

◆議員活動ブログ「百聞百見」より



道標・道路元標



兵庫県議会議員

藤 本 百 男

ふるさと加東の道標・道路元標

— 道標からふるさとの「道」の歴史を考える —

◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

◆議員活動ブログ「百聞百見」より



道標・道路元標

兵庫県議会議員

藤本 百男

目次

I 道路元標

市内に残る旧町村の道路元標	1
---------------------	---

II 道 標

市内各所に残る道標	7
—郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」 掲載の道標—	

〔番外編〕

福田橋記 加東大橋開通他	99
--------------------	----

まえがき

この「県政資料」は、私の議員活動ブログ「百聞百見」、郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」に投稿してきた記事の中から、テーマにそって、選び、まとめたものです。

第Ⅲ集は、道標と道路元標に焦点を当て、ふるさとの「道」の歴史を考えてみました。ふるさと加東には多くの道標が今も遺されています。京街道や大坂街道、高砂街道や西国三十三番霊場、加東四国八十八番霊場の巡礼道などの「道」が市内を縦横に通り、昔から多くの人々が往来してきました。今、道標は、旧道となった道端に、寺院の門前や境内に、あるいは農道の脇などで役目を終えて静かにふるさとの歴史を伝えています。

現在の加東市には中国縦貫道や国道175号、同372号、県道などが通る北播磨の交通の要衝となっています。道は、昔も今も人や物、文化が行き交う役目を果たしています。時代によっては、戦さの道であったり、祈りの道でもありました。そうした「道」の歴史を道路元標や道標をもとにふりかえるとともに地域の貴重な歴史遺産として未来に伝えていく契機になればという思いでまとめたものです。

人口減少、少子高齢社会が進行するなか、郷土の歴史と先人の足跡を知るとともに、未来にどう伝えていくかは今の時代を生きるに私たちの課題です。地域創生の資料の一つとして活用していただければ幸いです。

平成28年3月吉日

兵庫県議会議員

藤 本 百 男

「道路元標」

市内に残る旧町村の道路元標

1. 三階交差点の地名の由来

2006年06月18日



▲現在(平成27年7月)の三階交差点

加東市社の「明治館」(旧加東郡公会堂)から商店街を北に向かって少し歩いたところで、狭い交差点に出ます。国道372号線が市街地を迂回して環状線を走っているので、この東西方向の道が近道として利用さ

れ、交通量が多いところです。

古くから社に住んでいる人は、ここを「さんがい」とよんでいます。かつて神姫バスが商店街を走っていた頃には、「三階前停留所」がここにあったそうです。

さて、「さんがい」の地名の由来をたずねてみると、昔、この交差点の角に「三階旅館」という料理旅館があり、それが三階建てであったことから、「さんがい」というようになったといわれ

ています。しかし、三階旅館は二階建だったという人もあり、「さんがい」という呼び名の由来の解釈が揺らぎます。

ある人は、石の鳥居がある西方の鳥居地区から東を望むと、この交差点辺りが地形的に二段、三段目と階段のように高くなっていることから、三階というようになったという説を唱えています。

また、佐保神社の紋である三階菱からついた呼び名ではないかという人もあります。さらに、この交差点は、西、南、東の三方からの上り坂が出会う地点なので、「坂合」と呼ばれ、「さかあい」が「さんがい」に訛ったものではないかと推理する人も出てきて、「さんがい」論争はまだ決着がついていません。どなたか、決定打を！

三階交差点辺りにあった旧社町の道路元標

ところで、この交差点付近には、昔、旧社町の道路元標がありました（大字社小字下町829-2）。道路の拡幅などで、今は道路元標はありませんが、ここが社町の道路の起点になっていたのです。

2. 加茂村の道路元標

道路元標は、大正8年の「道路法施行令」で、国道や府県道の起点・終点の基準として設置されたものです。加東市では、旧滝野町新町の学校下の三叉路に「加茂村道路元標」が立っていますし、滝見橋の西の交差点にも「滝野町道路元標」が残されています。



写真は新町の「加茂村道路元標」です。「加」の字が読み取れます。「標」の字あたりがアスファルトに半分埋まっています。隣に「へんろみち」の道標も立っています。

3. 滝野町の道路元標

2006年08月06日



以前、この「ふるさと加東の歴史再発見」で、社町の道路元標が社市街地の三階交差点付近にあったことを紹介しました。今はもうありません。

しかし、新町と上滝野には旧加茂村と旧滝野町の道路元標が今も残っています。

写真は上滝野の滝見橋の西の交差点に残されている「滝野町道路元標」です。コンクリートの土台がつけられているので、まるで墓石のように見えますが、よくみると道路元標と刻んであります。

4. 上東條村の道路元標—今もひっそりと

2007年01月26日



加東市天神には、今も往時のにぎわいを伝える古い街並みが残っています。

天神市街の南を東西に走る中国縦貫道、これにそって走る県道17号線の天神北交差点から100メートルほど北に向かって市街に入ったところに、西に上がる坂道（倉谷坂）の分かれ道があります。ここに上東條村の道路元

標があります（写真）。

5. 福田村の道路元標—街角にひっそりと

2007年02月04日



加東市大門はかつて加古川舟運の川港として、また大門橋から播州鉄道に通じる物資集積の地として繁栄した地であります。

大門のほぼ中心、大門橋から県道を100メートルほど東に入った、集落を南北に走る旧道との交差点に福田村道路元標がひっそりと立っています。

アスファルトに下半分が埋もれて、よほど気を付けないと見過ごしてしまいますが、この地点がかつて福田村の道路の起点だっ

たのです。

大門の友人は、学生の頃、この曲がり角で自転車を止めるとき、この元標に足を置いていた、などと懐かしそうに話していました。

6. 上福田村の道路元標

2007年02月05日



今日は上福田村の道路元標を紹介しましょう。

上福田村の道路元標は加東市上三草の三草橋西詰の旧道に道標とともに並んで立っています（写真左端の低い石柱）。

旧道（丹波道、旧京街道）を少し北に向かって歩いたところに「やしる国際学習塾」がありますが、ここはもと三草小学校があった場所であり、さらに時代をさかのぼると三草藩の陣屋が置かれ、まさしく三草の中心地であったところです。

7. 鴨川村の道路元標—分かれ道にひっそりと

2007年02月07日

加東市下鴨川地区内の旧道を通っていると、分かれ道の民家の脇に道路元標らしき石柱が目に入りました。車を止めて、その正面に刻まれた字をよく見ると、「鴨川村道路元標」とかろうじて読めました（写真）。



以前から鴨川村の道路元標がどこにあるのかなと気になっていたところでした。下鴨川には鴨川村役場や巡査駐在所があっ

た、ということで道路元標もきっとそのあたりではないかと思い探していましたが、偶然の発見で嬉しくなりました。

このブログでも福田村、上福田村、加茂村、滝野町、上東條村の旧5ヶ村の道路元標を紹介してきましたが、これからも道路元標探しを続けます。

「道 標」

市内各所に残る道標
—郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」掲載の道標—

1. 田町通りの歴史—法蓮寺の道標

2006年06月14日



田町通りは、今は空地があったり、商店も少なくなってさびしい感じがしますが、お年寄りの話によれば、社の街で一番にぎやかな通りだったそうです。

いろんな店が立ちならび、暮れの「誓文払い」、「歳の市」には、身動きがとれないほどの人出があつてにぎわったといひます。

さて、田町通りの東の端に法蓮寺があります。その境内の一角に「左 きよみず」「右 ほつけ山」と刻まれた大きな道標が立っています。道標の裏にはこれを立てた人物の名と、これを発見し再建したその子孫と協力者の名が刻んであります。この大きな道標にまつわるエピソードを紹介しましょう。

今から200年ほど前、甲州（今の山梨県）の絹問屋の肥谷井角右衛門（ひやい・かくえもん）さんが商売のために西国を巡った帰りに、社の清水寺の辺りで道に迷い、寒さと疲労のために

倒れてしまいました。幸い、そこを通りがかった大名行列に助けられ一命をとりとめることができました。角右衛門さんは、この経験から、旅人のために播州の街道に10本の道標を建てました。そのうちの一本がこの道標なのです。

昭和になって、角右衛門さんの子孫が、先祖が播磨に道標を立てたという伝承の真偽を確かめるために社に来られ、肥田文旅館（現在の商店街駐車場イベント広場にあった）に泊まりました。その話を聞いた米屋を営んでいた上月泰治郎さんは、かつて本町通りに立っていた道標がそれにあたると思いましたが、その道標は社の街の拡大と交通の発展で邪魔になり、あちこちに移されたり売られたり、また買い戻されたりして、行方が転々としていました。そして、果ては佐保神社の境内の林の中に倒されていたのです。

上月さんはその子孫と出会い、昭和16年に京都への街道筋にあたる田町の法蓮寺の境内に再建したのです。その後、昭和40年代に、清水寺の麓で同じ形式の道標が見つかり、これも10本のうちの一本だということが分かりました。

法蓮寺の道標には以上のようなエピソードがあったのです。これは、今は亡き上月輝夫先生（郷土史研究家）から教えていただきました。

昔の旅人にとって、道標はとても大切なものでした。社の街の中にもまだ昔の道標が残っています。気をつけて見てみてください。

※建立者は「施主 甲州 肥谷井角右衛門」と太い字で刻まれています。遠く山梨県の人です。そして、もう一面には、「昭和十六年四月八日発見」「同年十月廿五日再建」と発見、再建の

年月日が刻まれ、その下部に「山梨県西都留郡西桂村小沼 肥谷井 遠孫 渡邊顕二 母 たけ」と、地名と名前が刻まれています。

2. 善龍院と道標

2006年07月14日



社の市街地の北、下り坂にかかるところに善龍院があります。

善龍院には、家原浅野氏の菩提所として代々の領主の位牌が納められ、初庚申（年始の庚申日）には多くの人々が参詣しています。

庚申とは、「庚（かのえ）申（さる）」十干十二支の組み合わせで60日に一度めぐってきます。本尊の青面金剛大明王（しょうめんこんごうぞう）は病気をなくす力を持っているといわれています。

善龍院境内の庭の隅に2本の道標が立っています。

そのうち1本は寶暦12年（1762）と刻まれており、旧社町にある百本余りの道標の中で最古のものといわれています。

道標には「右 きよみず」「左 ほつけさん」と彫られており、西国三十三番札所巡りの人々の大切な目印となっていたことでしょう。

3. 道池の道標—今は地藏さんの門柱

2006年09月14日

社の田町通りの東端にある法蓮寺のすぐ東隣に道池地藏尊があ



ります。その門柱をよく見ると道標であることがわかります。

「左 きよみづ道」「右 大さかみち」と刻まれています。高さは1メートル余りのこの道標は、もとは道池があったころ、田町から道池の土手に上がり、道が分かれるところに立てられていたということです。

左に行けば、木梨から三草、鴨川を経て京都方面に通じる京街道へ。そして右に行けば、土手にそって中三昧の墓地を抜け、大阪方面に通じる大阪街道へとつながっていたのでしょう。

4. 半分埋まった道しるべ―「ど根性道標」

2006年11月24日



写真を見て下さい。これはアスファルトの道路から上部が少しだけ出ている道標です。気を付けていないと見過ごしてしまうでしょう。

刻まれた字から加東四国遍路道の道標だと思われます。手で指をさした目印が独特です。この道標は上滝野で見つけました。

この道標に限らず、かつて旅人にとって大切な案内標識だった道標が道路整備や圃場整理などによって位置や向きが変わったり、ひどい場合は紛失したりすることもあるようです。

相生でアスファルト道路に生えた大根が「ど根性大根」として有名になりましたが、この道標も道路がアスファルトになり、コンクリート電柱が隣りにやってきてもしっかり立って指をさし続ける「ど根性道標」のように見えます。まちかどの歴史遺産として大切にしたいですね。

5. 上久米の道標―東光寺参道で

2007年02月03日



県道17号線（西脇三田線）上久米の東光寺へ通じる参道を少し入ると、道標、石灯籠が並んで立っています。

かつては米田村の役場、駐在所がこの辺りにあり、村の中心でした。近くに住んでおられる方のお話によれば、役場跡は今は田圃になっていて、かつての風景は想像できませんが、参道には大木が生えていたそうです。この道を上ると、日照山東光寺があります。法道仙人の開基と言い伝えられ、本尊は大日如来です。

道標には「すぐ 京 大坂」（まっすぐ京都・大坂）、「左 屋しろたか郡」「右 朝光寺 きよ水」、「西国八十八箇所 本尊大日如来」と刻まれています。建立は約150年前の安政六年（1859）。ペリーの黒船がやってきて、幕府は鎖国から開国に向かう頃のことです。

6. 上三草の道標—旧街道の交差点

2007年02月06日



加東市上三草、三草川の西岸に沿って旧京街道が北東に延びています。かつて、京都と播磨を結ぶ重要な交通路だったこの街道も、国道372号線（川の東）の完成で、今は車もあまり通らない静かな通りになっています。

やしろ国際学習塾からさらに旧街道を北に向かって歩くと、火の見やぐらと消防団器具庫が見えてきます。

ここに乗用車1台がかろうじて渡れる狭い橋が架かっています。橋の名は「大阪橋」。その小ささに似つかわしくない大きな名前です。

器具庫の前に大きな道標が立っています（写真）。「すく 大坂」（まっすぐ大坂）「すく きよ水 三里」「すく た可郡」「すく ほつけ山 五里」と刻まれた文字が目飛び込んできます。高さは約160センチ。建立は今から約160年前の弘化3年（1846）です。

この道標が立っているところが、京街道と大坂街道の交差点だったことを示しています。大坂街道は、山陰から大坂方面に通じる道で、西脇市、滝野の曾我、三草、下久米、上久米、東条の天神を経て、吉川、大阪へとつながっていました。

「大阪橋」という橋の名の由来に納得がきました。

7. 南坊の道標ー自転車通学の中高生を見守る道標

2007年02月08日



加東市沢部、旧国道175号線の南坊交差点から100メートルほど北に走ったところ、右手（東側）に東実地区へと続く旧道があります。ここに一本の道標が立っていて、車で走っていてもよく目立ちます。

もとはもう少し東の旧道にあったようですが、地元の方が今の位置に移したということを聞きました。

道標には「すく 明石 高砂」「左 清水 多可郡 社」「右 大阪 有馬 小田」「姫路 北条 大門」と刻まれています。建立は明治2年の文字がかるうじて読みとれます。

この旧道は中学生、高校生の自転車通学路としても利用され、毎日多くの生徒が登下校しています。明治のはじめ、約140年前に建てられた道標も、今は、多くの中高生を見守っているようです。

8. 三草橋詰の道標

2007年02月09日

加東市上三草、旧京街道の三草橋西詰に3本の石柱が立っています。その真ん中の道標には、「左 ほっけさん」（加西市・法華山）「北 志ん町 たきの」（加東市新町、滝野）と刻まれています。建立は約170年前の天保2年（1831）です。

三草川にそって南北に延びる京街道はかつて京から播磨に通じ



る重要な道路で、多くの人々が往来したことでしょう。しかし、今では東の山麓を走る国道372号線を車がひっきりなしに走っています。静かな旧街道とは対照的です。

9. 野村お堂の道標

2007年02月12日



加東市野村のお堂の横に一本の道標が立っています。「左 きよみず」「右 ほっけ山」と刻まれています。

建立年は寛政九年と刻まれていますので、1797年、今から200年余り前のことです。寛政といえば、松平定信による寛政の改革が浮かんできますが、ヨーロッパではフランス革命が起きたころの話です。そんな

な時代に建てられ、今日まで立ち続けているのですね。

時を経たもの。これを歴史とよびます。この道標はこれからも立ちつづけるのでしょうかね。

10. 下久米の道標

2007年02月13日



加東市下久米、県道西脇三田線脇に一本の道標が立っています。いつも気になっていたのですが、今日はようやく車を止めて道標に「ご挨拶」をしました。

建立年は亨和2年と刻まれています。1802年ですから217年も前に建てられたのですね。その2年後にヨーロッパではナポレオンが皇帝になっています。昨日紹介した加東市野村のお堂の道標とほぼ同じ頃に建立されたものだというこ

ともわかりました。

道標には「南無観世音」「左 きよ水 右 大阪」と刻まれています。山陰から大阪へと通じる大阪街道筋にあったものでしょう。道標の真ん中あたりにセメントで修理をしたあとがありました。人間で言えば手術あと。200余年の風雪に耐えて、今も県道脇でしっかりと立っているその姿にあらためて敬意を表したくなりました。

11. 木梨の道標

2007年02月14日

三草川と久米川（地図には千鳥川と表記してある）が合流する加東市木梨の落合橋の西のたもとに一本の道標が立っています（写真）。

高さは約150cmで、建立年は弘化3年（1848）と刻まれ



ています。天保の改革、そして外国船の来航と、すぐに幕末が迫っていた時代のことです。

道標には「右 ほっけさん」「左 浄土寺 小田（北西）」「左 きよみず寺」と刻まれています。京街道を往来する人々にとって、法華山一乗寺（加西市）や清水寺（加東市平木）、そして浄土寺（小野市）などの寺が目標となっていたこと

ことが分かります。

二つの川が落ち合うこの地点ですが、地元の方の話では改修されて昔の姿と違っているとのことでした。堤に植えられた桜が満開となる春が楽しみです。

12. 山国の道標

2007年02月17日



加東市山国、集落を東に抜けたところに一本の道標が立っています。高さは1メートルほどで遠くからもよく目立ちます。

「左 大深山」「右 小田、脇川」と刻まれています。建立は大正15年とあるので、比較的新しい道標です。

大深山は加東市松沢の東福寺のことで、この道標は中東条村松沢への

道と下東条村小田へ通じる道のわかれ道にあたったのでしょう。

13. 稲尾の道標

2007年02月18日



加東市稲尾の分かれ道に道標が立っています。「右 志んまち」「左 きたの」と刻まれています。その隣にカーブミラーが立っています。かつて、道を往来した旅人にとってこの道標は安全に目的地へ向かうために大切な役割をはたしてきたはず。今はカーブミラーが自動車の安全な通行に役立っています。

14. 鴨川小学校前の道標

2007年02月21日



加東市立鴨川小学校の前で車を止めて休憩をしました。ふと、小さな道標が目にとまり写真におさめました（写真）。

「へんろみち」、「加東四国」の文字が読みとれます。加東四国八十八ヶ所巡りの道標なのでしょう。今は役目を終えて、学校に通う子ども達の元気な姿を見守っているようでした。

15. 山国の道標－2

2007年02月22日



加東市山国の東の境、社と東条を結ぶ県道沿いに一本のどっしりとした道標が立っています（写真）。

この道標には「右 大深山」「左 大さか」「右 やしろ」「左 山くに」と刻まれています。建立年は嘉永7年と読めます。ちょうどペリーの黒船がやってきて幕府を驚かせた頃です。

「大深山」は中東条（現在の加東市松沢）の東福寺のこと、「大さか」（大阪）とあるのは、この道が東条を経て大阪へ通じる街道だったことを示しています。

一方、東条、大学方面（兵庫教育大学）から西へ向かってくると、ここが山国と社への分かれ道だったのでしょう。

16. 道標－台地で迷わぬように

2007年02月23日



加東市上久米から新定に通じる県道を走っていると、何本かの道標が立っていることに気づきます。そのうちの1本がこの道標です（写真）。

自然石の正面に「右 依ふじ」「左 大さか」と刻まれているのがかろうじて読みとれます。米田の谷から上がってきて、依藤野へと向かう道と

東条へ抜けて大阪に通じる道との分かれ道に立っていたのでしょう。建立年は不明です。

今は、この県道沿いには米田小学校、やしろの森公園、ゴルフ場があり、車が走り抜けています。しかし、昔はこの道標をたよりに方向を定めて山を越えて行ったのでしょうか。

17. 佐保神社宮前の道標ー西国巡礼の道標ー

2007年02月24日



加東市社、佐保神社の参道脇に1本の道標が立っています。国道372号線から三階交差点を経て環状道路に抜ける道路と参道が交差する所なので、狭い道を車がひっきりなしに通っています。

この道標の建立年は寛政9年(1797)ですから、今からおおよそ200年前に建てられた古い道標です。「右 きよみず」「左 ほっけさん」と刻まれています。社は高砂街道と京街道の交わる宿場町でもありました。多くの道標に清水寺と法華山一乗寺(加西市)の二つの寺の名が刻まれていることから、当時の人々にとっての大きな目印になっていたがわかります。

18. 道標ー台地の分かれ道

2007年02月25日

加東市上久米と新定を結ぶ県道沿いの分かれ道に2本の道標が



立っていました。表面に刻まれた字は読み取りづらくなっており、「右 神谷山」、「右 上久米」の文字がかろうじて読めます。

広い台地を通る一本の道。昔は松林だったのか、荒野だったのか。この道標が道行く人にとっては大切な目印だったことでしょう。今はその役目を終えて静かにたたずんでいるようです。

19. 東実の道標—竹林の中にひっそりと—

2007年02月26日



加東市松尾から東実に通じる旧道を走り、壺沢池を左手に見ながら出水川に架かる出水橋を渡り、東実に入ったすぐの左手、林の中に一本の道標が立っています。

車で走っていると、見逃してしまうでしょう。うっそうとした竹林の入口あたりは、昼間でも薄暗く北側にあるため日も当たりません。その

せいか、道標の表面は湿った緑色になっています。

道標には「右 小野 北在家 高砂」、「左 屋度村」と刻まれています。建立年は天保4年（1833）ですから、今から約170年前のものです。

実は、この道標のことが以前から気になっていたのです。というのは、郷土史家、故・上月輝夫先生から、この道標に刻まれた地名についてのエピソードを聞いていたからです。こんな話だったと思います。

この道標には「北在家」という地名が刻まれています。その理由は、この道を通して、北在家（加古川市）に行く人が多かったからです。なぜ「北在家」なのかというと高名な灸の先生がおられ、多くの人が遠方から通ったそうです。上月先生も小さい頃に北在家の先生宅に行かれたということでした。丹波から北在家を目指す人も多かったことから、「北在家」の地名が刻まれたそうです。

写真を撮っていると、ウォーキング中の年輩の方が通りがかられ、いろいろ教えていただきました。ここは、福田村の屋度村への分かれ道で、今は出水川に沿ってほんの少しかつての道の痕跡が残っている、と。なるほど、道のようなものが見えます。

松尾、東実、南坊へと通じるこの道はかつての幹線道路。やがて幹線道路は西へ西へと移動しながら、今では国道175号線（4車線）が走っています。この道標もまた役目を終えて今は竹藪の中でひっそりと通学生の姿を見守っているようです。

20. 木梨の道標

2007年03月01日

加東市木梨の、旧京街道を公民館を過ぎて、さらに北に向かって歩いていると、曲がり角に立っている道標が目に見え込みます（写真）。

下半分は写真のように金具で補強されています。建立年は嘉永元年（1848）で、約160年前のものです。



表面には「右 いせ 笹山 古市」「左
ほっけさん ひめじ」と刻まれています。街
道を往来する幾多の人々の道案内の役目を終
え、今は静かに往時の街道の存在を伝えてい
ます。

21. 出水・福吉の道標—東西南北

2007年03月02日



加東市の出水から福吉へ通じる旧道を行
くと、東西南北に道が交わる角に一本の道
標が立っていました（写真）。

明治29年8月（1896）建立とあり
ますので、日清戦争直後、今から約110
年前に建てられたことがわかります。

四面に地名が刻まれています。

「すく 野村 北条」

「すく 社 清水」

「すく 小田 大坂」

「すく 大門 高砂」

「すく」は「まっすぐ」の意味で方向を示しているのですが、東
西南北それぞれ目標となる地名が刻まれています。当時はこの角
が主要道の重要な分岐点だったのでしょう。

22. 依藤野の道標

2007年03月04日



社から嬉野を通り、東条へ通じる県道を走っていると、依藤野の大きな坂にさしかかるカーブに一本の道標が立っています。

林の中の少し高い位置に、しかも大きな字が刻んである石柱なのでよく目立ちます。

「右 神谷山」「左 大さか」。「神谷山」は「こうだにさん」と読みます。

神谷は神谷山禅瀧寺の門前の村でした。明治6年に国依（くにより）と協議の上合併して「栄枝」と村の名を定めた、と聞いています。

この社から嬉野を通り、東条へ通じる道は、大阪道とよばれた街道で、依藤野で神谷への分かれ道に道標が建てられたのでしょう。

23. 依藤野の道標

2007年03月05日



昨日紹介した依藤野の道標のすぐ脇に卵形の丸い石の一部が割れてなくなったような石が置いてありました。近寄ってよく見てみると、道標でした（写真）。

「右 大ぶかみち」「左 大さかみち」と読めます。大阪道（社村から嬉野を通り東条から大阪方面に通じる道）へ通じ

る大深山東福寺（松沢）との分かれ道に置かれていたものでしょう。隣の大きな道標が目立って、つい見落としそうですが、その丸い形に目が引きつけられました。

昔の嬉野は松林が続く原野だったと聞いています。その中に細い道が通じており、社と東条、米田と中東条や下東条を結んでいたそうです。今では自動車が快適に走る広い道路がつき、松林も開発されて農地や宅地、公共施設、ゴルフ場などができています。その中で役目を終えたこうした道標が時代の流れを静かに見つめています。

24. 嬉野の道標

2007年03月06日



加東市の中央に広がる嬉野台地。この台地を東西に走る県道沿い、神姫バス駐車場のすぐ脇に一本の道標が立っています。

道標には「右 木なし 新まち」「左 やしろ みち」と刻まれています。東条方面から来ると、ここで社方面にそのまま向かう道と木梨、新町方面に向かう道との分かれ道がこの辺りにあったのでしょう。

今ではバスのりばと用水路、県道の歩道があるばかりです。

25. 依藤野の道標

2007年03月07日



加東市の嬉野台地を東西に走る県道が、兵庫教育大学や嬉野台生涯教育センターへ入る道路と分かれる地点に道標が立っています。

ここには依藤野開墾記念碑も建っているのですが、道路からは樹木の陰になりよく見えません。道標はお地蔵さんの隣りに立っています。

「右 やしろ ほつけ山」「左 大深山 小田」と刻まれています。建立年などはよく読みとれませんでした。法華山は加西市一乗寺、大深山は加東市松沢の東福寺で、往来する人々の目印だったことが分かります。今では大学や生涯教育センターへ向かう人がこの分かれ道を通っていきます。お地蔵さまと道標が静かに往来の安全を見守っているようです。

26. 上中の道標

2007年03月09日

加東市上中（かみなか）は隣接の喜田とともに滝野社インターの南、旧社町側に位置する地域で、急速に市街化が進んでいます。

年輩の人は上中を中村と呼びます。この中村がかつてこの地方の中心に位置した村であったことがわかります。

県道西脇三田線と旧国道175号線が交わる交差点から少し東の地点で、南北に走る旧道と交わっています。これを北に向かって村中の狭い道を行くと、四つ角に出くわします。中村の中心に



あたる四つ角ですが、ここに一本の道標が立っています。

建立年は文久3年（1863）ですから、今から約140年前のものです。高さは約120cm。その四面には、「左 きたの 下たきの」「すぐ きよみづ」「すぐ やしろ 小野 三木 あかし」「右 志ん町 たき乃 多可郡 たんご」と刻まれています。

この道が、丹後から明石まで、すなわち日本海から瀬戸内まで結ぶ主要ルートであったことを今も伝えて立っているこの道標。ふるさとの歴史遺産として大切にしていきたいものだと思います。

27. 東実の道標

2007年03月12日



車を走らせていると、道路脇に立っている石柱や石灯籠、石鳥居などが目に飛びこんでくることが多くあります。今日も加東市東実の集落の中の道をゆっくりと走っていると、曲がり角に小さな道標を見つけました。さっそく車を止めて、写真を撮り、刻まれている文字を読みました。

「すぐ 三木 明石」「すぐ 小田 東条」「すぐ やしろ」「すぐ □□」と四面に地名が刻まれています。この村の中の四つ角

がかつて各地を結ぶ道の交わる地点であったことを示しています。

建立年は文久3年（1863）と読めるのですが、はっきりしません。もしそうなら、約140年前のもので古い道標です。幕末、薩英戦争が起きた年であり、アメリカでは南北戦争、リンカーンが奴隷解放宣言をした年ということになります。

28. 善龍院の道標

2007年03月13日



加東市社の善龍院には旧社町で最も古いとされている道標があります。寶暦12年（1762）の建立で、「右きよみず」「左ほつけさん」と刻まれています。

そばにもう一本、円柱の道標が立っています（写真）。同じように、「右きよみづ」「左ほつけさん」と刻まれています。ともに西国三十三ヶ所札所巡りの御嶽山清水寺と法華山一乗寺を目印として街道筋に建てられていたものでしょう。

旧社町には百本余りの道標があるといわれています。道路がつけ替えられたりして、元の場所とは違った場所に移されたり、あるいは一ヶ所に集められたりして保存されているものも少なくありません。

しかし、旧街道などに変わることなく立ち続けている道標を見つけると、思わず立ち止まってしばらく見てしまいます。威厳さえ感じることもあります。

29. 佐保神社西八丁の道標

2007年03月18日



加東市鳥居にある石造鳥居を紹介しましたが、その一角に道標が立っています（写真）。

「東社マデ八丁」と刻まれていますので、この鳥居の位置を示していることは間違いありません。また、「右きよみず」「左 ほつけ山」と刻まれており、京街道筋にあったことも示しています。

今では国道372号線が鳥居集落の南を東西に走っていますので、旧街道は静かな通りになっています。やがて国道は社サイエンスパークの北を走るようになり、今よりさらに南へと移ります。

また、南北には国道175号線が走り、鳥居集落の東で二つの主要国道が交差する北播磨の交通の要となっています。

石造鳥居、そして道標。旧街道からひっそりと時代の変化と繁栄ぶりを眺めているようです。

30. 上三草の道標

2007年03月22日

加東市上三草の公民館から少し南、道路脇に一本の道標が立っています（写真）。

自然石の前を削って平らにし、字が刻んであります。「右 大さか」「左 きよ水」と読めます。この道を車で走ることも多く、いつも気になっていたのですが、天気もよく時間のゆとりもあっ



たので、車を止めて写真を撮りました。

上三草は京街道と大坂街道の交差するところだったので、このような道標が建てられたのでしょう。コンクリートで地盤が固められ、これからもずっと立ち続けるでしょう。

31. 稲尾のへんろ道の道標

2007年03月23日



加東市稲尾を東西に走る道沿いに一本の道標が立っています。

道標の上の方に人差し指で行き先を示した手が浮き彫りにしてあり、「へんろみち」「加東四国」の文字が読みとれることから、加東四国八十八ヶ所霊場巡りの道標であることがわかります。

この指さしの浮き彫りのある道標は市内各所で見かけます。霊場巡りの遍路道を知る手がかりとなります。

また、道標の下の方に施主の名が刻まれています。そこには遠く美囊郡三木町の人物名が刻まれています。加東四国霊場巡りが盛んだった頃のようなすがうかがえます。

32. 上鴨川の道標

2007年03月26日



加東市上鴨川の集落の東、国道372号線沿いに一本の道標が立っています（写真）。背の高い道標に深々と大きな文字が刻んであるのでよく目立ちます。

「左 京 いせ ふるいち ささやま」
「右 きよ水 三田 大阪」「左 ほつけ
山 や志ろ たきの」と刻まれています。
字の一部がもう一つの面の字とつながって、
穴があいて、向こうが見えています（写真では、「右」の文字のはらいの部分の先）。

建立は大正3年（1914）ですから90年あまり前のことです。

33. 新町の道標—日本海から瀬戸内海まで—

2007年03月29日



加東市新町の旧市街の南端に近いところ、古い民家の倉庫のそばに立派な道標が立っています。

明治45年1月（1912）建立と刻まれていますから、今からおよそ90年余前に立てられたものです。

三面には「左 やしろ 明石 高砂」「右
きたの 大門 栗生」「右 多可郡丹波 丹後」
と大きな文字で深々と刻まれています。

何と雄大な道標でしょう。この旧道が北は

日本海（山陰）から南は瀬戸内海（高砂）まで、南北を貫通する幹線道路であったことを知ることができます。

新町は加古川舟運の河岸として栄えた町で、かつてのにぎわいを今も残る古い民家や広い道路などが伝えています。その一角にこの堂々たる道標が今も立ち続けていることに嬉しさを覚えます。

34. 清水寺—西坂の道しるべ

2007年04月09日



加東市平木、清水寺西坂に一本の堂々とした道標が立っています。道標には、「丹波道」「右 きよみず」「左 ほつけ山」と深々と刻まれています。

この西坂の道標は、すでにこのブログでも紹介した社の田町筋にある道標と同じもので、甲州（今の山梨県）の絹問屋、肥谷井角右衛門が建てたものです。「丹波道」の文字の下に、肥谷井角右衛門の名が刻まれています。

この道標が建立されたのは文化5年（1808）のことですから、今から200年も前のことになります。この西坂の道標にまつわるエピソードを紹介します。田町の道標のところで一度紹介したのですが、もう一度掲載します。参考にして下さい。

今から200年ほど前、甲州（今の山梨県）の絹問屋の肥谷井角右衛門（ひやい・かくえもん）さんが商売のために西国を巡った帰りに、社の清水寺の辺りで道に迷い、寒さと疲労のために

倒れてしまいました。幸い、そこを通りがかった大名行列に助けられ一命をとりとめることができました。角右衛門さんは、この経験から、旅人のために播州の街道に10本の道標を建てました。そのうちの一本がこの道標なのです。

昭和になって、角右衛門さんの子孫が、先祖が播磨に道標を立てたという伝承の真偽を確かめるために社に来られ、肥田文旅館（現在の商店街駐車場イベント広場にあった）に泊まりました。その話を聞いた米屋を営んでいた上月泰治郎さんは、かつて本町通りに立っていた道標がそれにあたると思いましたが、その道標は社の街の拡大と交通の発展で邪魔になり、あちこちに移されたり売られたり、また買い戻されたりして、行方が転々としていました。そして、果ては佐保神社の境内の林の中に倒されていたのです。

上月さんはその子孫と出会い、昭和16年に京都への街道筋にあたる田町の法蓮寺の境内に再建したのです。その後、昭和40年代に、清水寺の麓で同じ形式の道標が見つかり、これも10本のうちの一本だということが分かりました。

法蓮寺の道標には以上のようなエピソードがあったのです。これは、今は亡き上月輝夫先生（郷土史研究家）から教えていただきました。

35. 三国の境の道標—梅木峠

2007年04月10日

この道標は、加東市平木の集落からさらに南に一本道を進んだところ、梅木峠にあります。道が二本に分かれています、ここが三国の国境なのです。



つまり、播磨、摂津、丹波の三国の境になります。今でいうと、加東市（播磨※加東郡社町）、三田市（摂津※美囊郡吉川町）、篠山市（丹波※旧多紀郡今田町）、の境になるの

です。

平木は加東市の東北の端に位置しており、同時に播磨国の東北の端でもあります。清水寺の麓に開けた村で、「開」（ひらき）と称していたのですが、幕末に現在の「平木」と改めたそうです。

道標に刻まれた文字は読みにくくなっていますが、大川瀬の文字がうっすら見えます。

36. 東古瀬の道標

2007年04月17日



加東市東古瀬の集落の北、田圃が広がる中を東西南北にまっすぐに走るの道路が交差する地点に石造の小さな祠と一本の道標が立っています。

背の低い道標の四面には、「すぐ あかし み

き」「すぐ やしろ たきの」「すぐ 小田 □□」などの文字が

刻まれています。おそらく道路や田圃が整備され、この位置に置かれたものだと思いますが、かつては旧道に立って人々の往来の目印として重要な役割を果たしていたのでしょう。

背の低いのは、上的一部分がないためでしょう。「すぐ・・・」の「す」の字の部分がありません。ちなみに「すぐ」とは「まっすぐ」の意味です。

37. 鳥居の道標―国道の脇にひっそりと

2007年05月04日



加東市鳥居の集落の真ん中を東西に走る旧街道を社方面に向かって走り、国道175号を渡ったすぐ左手に一本の道標が立っています。

これは、加東四国八十八ヶ所霊場巡りの道標で、「加東準四国」「へんろみち」と刻んであります。「準」は四国八十八ヶ所を写したものだという謙った表現でしょう。

現在は国道175号線と372号線が交差する東西南北の交通の要になっているところですが、そのすぐ脇の旧街道沿いにひっそりこの道標が立っているのです。

道標の上部に方向を指した手と「次第三十二番」と刻んであります。そして下部には、施主の名も刻まれています。次の第三十二番は鳥居のお堂ですから、指は西を指していなければなりません。しかし、この指は東を指しています。国道工事か何かで元の場所から移され、向きも反対になってしまったのでしょう。

かつては一面田圃の景色が広がっていたのですが、今やビルが建ち、国道をトラックや乗用車がうなりをあげて走り、人は猛スピードで行き過ぎていきます。一度足をとめてじっくりと道標を見てみるのもいいのではないのでしょうか。

38. 穂積八幡神社境内の道標

2007年06月06日



加東市穂積、千鳥川が加古川に合流する地点に近いところに穂積の氏神、八幡神社があります。すぐ裏（北）を中国自動車道が走っており、前面の川と後ろの高速道路によって、周辺と隔絶されたような形になっています。

この八幡神社の境内の一画に一本の道標が立っており、その三面には写真のように文字がいっぱい刻まれています（写真）。

「すぐ 大門 高砂 明石 □ 法け山 光明寺」

「左 北野 志ん町 滝野 右 清水 京 大坂」

「すぐ 多可郡 丹波 日本一幅 善導大師」

そして、もう一面の上部に「弘化」の文字がかるうじて読みとれます。今から約170年ほど前の「弘化」年間（1840年代）にこの道標がつくられたのではないのでしょうか。元は街道筋に建てられたものかもしれませんが、役目を終えて今はこの境内で静かに参拝者を迎えています。

39. 天神三叉路の道標

2007年06月04日



加東市天神、市街の中心の三叉路に一本の大きな道標が立っています。古い家屋が軒を連ねる天神市街の景観にとけ込んでいます。

高さは大人の身長ほどあり、力強い太い字が刻まれています。「右 大坂 兵庫」「左 京 きよ水」と刻まれ、この三叉路が大坂街道と京街道の分岐点であ

ったことを示しています。

「文政十年」（1827）と刻まれており、今から180年前に建てられたものです。調べてみると、小林一茶や伊能忠敬、杉田玄白らが活躍していた頃です。

40. 貝原の道標

2007年07月16日

久しぶり（約一ヶ月ぶり）の投稿です。

台風4号の雨で増水した加古川のようすを見ながら、国道372号線に架かる福田橋を西から東岸へ渡るとそこは加東市貝原。橋から20メートルほどのところを右折するとすぐに国道372号のバイパス工事現場があります。ここに薬師堂や墓、小宮があります。

その境内の大ケヤキの根元に一本の道標がもたれかかるように



置かれていました。道路工事の関係で一時的な避難かなとも思われるような置き方でした。(写真：ケヤキの根元に斜めにもたれかかっているのが道標。

手前にまっすぐ立っているのが百度石、向こうの建物が薬師堂)

道標には「右 きよみづ」「左 □(志) ん町 たか郡」と刻んであります。また、「加東四国 第三十三番霊場」「文政七申四月立」「四国同行中」と各面に刻んであり、この薬師堂に関係のある道標であることがわかります。

文政七年ですから西暦1824年。今から183年前に立てられた古い道標です。加東四国八十八ヶ所霊場では三十二番は鳥居、次の三十四番は河高になっています。

ちなみに大ケヤキは社町の保護樹に指定(昭和60年)されている古木です。薬師堂の近くで草を引いておられたお年寄りに道標のことを聞いてみると、「新しく道がついて、まるで昔と姿が変わってしまいました。さて、どこにあったかいな」とつぶやきながら周囲を見回しておられました。

この道標はいずれ大切な地域の歴史遺産として保存されるだろうと思います。

41. 竹藪が伐られて道標が・・・

2008年04月16日



加東市の嬉野台地を社から東条に抜ける学園道路沿いには、社高校、兵庫教育大附属学校園、県立教育研修所など学校や教育施設があります。

教育研修所の西には元嬉野公民研修所の跡地があり、今は臨時の駐車場として使われています。その南に天理教社大教会や新しい住宅地、大学宿舎などが建ち並んでおり、開発が進んで

景色も変わりつつあります。

天理教の敷地の北側は一段低くなって、水路が通っています。竹藪になっていたところで人が入り込めるような状況ではありませんでしたが、ある日水路に沿って竹が伐られて見通しがよくなっていました。

ふとその水路脇に石柱が立っているのが目に飛び込んできました。気になって車を止めて2メートルほど下の水路脇まで降りてみました。

やはり道標です。こんな所に道標？。道路や水路をつくる際に移されたのか？それとも元はここが道だったのか？そんなことを考えながら、道標に刻まれている字を調べてみました。

右 下山く□□ 左 上山國淨□□ と下部は土中に埋まって竹の根がからんで読めない状態でした。この地点から南の方向には山国の集落があり、方向的に右は西、左は東に当たり、下と上に向かうことになります。

この道標が物語る嬉野（山国地）のことをもう少し調べてみたいという気持ちになりました。

42. つつじ満開の傍らに—上久米の道標

2008年04月19日



加東市上久米の「県立やしろの森公園」に接する道路の歩道の脇に低い石柱2本が立っています。この歩道は公園を巡る散策道にもなっているので、足もとに少し視線を落として歩けば気がつきます。

この石柱は道標でした。表面に刻まれた字を読んでもみると、「すぐ栄枝 大深山」「久米の大日□□□□」「右 上久米村□□□□」「左□□□□天神□□」といった地名が刻まれていました。上久米村から嬉野を経て栄枝方面（中東条）に通じる道に立てられたものでしょう。「明治十九年四月・・・」と刻まれているので比較的新しい道標であることがわかります。

昔は久米の大日さんや大深山のお寺にお参りする人々の目印としてのお役を果たしたのでしょうが、今は公園を散策する人々を静かに見守っているように見えました。

43. 安取の道しるべ

2008年04月17日

4月のはじめ、桜満開うらかな春の日差しのなかを青野原か



ら高岡を抜けて加古川沿いの加東市河高の安取（あっとり）の集落へと車を走らせました。台地を下って、J R加古川線の踏切を過ぎると、すぐに突き当たるように分かれ道に行き

当たりました。

そこに安全ミラーやP T Aの看板を脇に従えるように一本の道標が立っています。道標に挨拶なしに通り過ぎるわけにはいきません。

少し斜めに傾いた道標には太く深く字が刻んでありました。

「左 きよみ（づ） 右 ほつけ山」

「是より 姫路七り 高砂六り」

「天保十一年」

安取は江戸時代には、加古川の高瀬舟の舟運で大いに栄えた村で、対岸の野村と結ぶ加古川の渡しがあったところです。また、高砂への街道と京姫路への街道が交差する陸上交通の要でもありました。

きっと多くの旅人がこの道標を目印にして巡礼や商いの旅を続けたのでしょう。

※現在、この道標は地区の皆さんによって整備され、真っ直ぐに建て直されています。

44. 貞守の道標—田沼時代から

2008年06月19日



加東市貞守（長貞地区）に一本の道標が立っています。この歴史ブログで常夜灯を紹介しましたが（平成19年3月）、道標はそのすぐ近くの用水路に沿った旧道に立っています。

建立年は安永八年（1779）と刻まれています。江戸時代の半ば、あの田沼意次が老中の頃ですからずいぶん古い道標です。アメリカ合衆国の独立宣言が出されたのがこの3年後ですからね。

道標の上部には仏様が刻まれており、その下に「左 きよミすたんば 道」「右 大川瀬 あい道」と刻まれています。すぐ側を用水路があり、ゆったりと水が流れていますが、大川瀬からの水だそうです。

45. 道の駅の道標—とうじょう

2008年07月12日

中国自動車東条インターのそばにある「道の駅とうじょう」の駐車場入口に一本の道標が立てられています。

道の駅で地元産の野菜を販売しているコスモス会の皆さんに聞いてみると、元は山の中の道にあったもので中国道やインターの建設で移されたということでした。「道の駅とうじょう」の大



きな石の隣に立つ小さな道標。これまで何度も来ているのですが見逃していたんですね。

道標の表面の字は読みにくくなっていました。中央に「四国八十八ヶ所」と刻んであり、その両脇に「右 久次三木」「左 竹原三田」と刻まれています。

地名も読みにくい状態でしたが、コスモス会の皆さんに教えていただきました。側面や背面の字は読めませんでした。『東条の道標巡覧記』によれば、明治28年の建立年が刻まれているとのことでした。

かつては山の中の巡礼道でお参りの人々の大切な道しるべの役割を果たしてきたこの道標。今は道の駅で静かに道の駅を訪れる車と人々を見守っているようです。

46. 高岡の道標—加東の最西端

2008年08月16日



加東市高岡の旧道沿いに庚申堂があり、その角に一本の道標が立っています（写真）。高さ1メートル余りの立派な道標です。

「東 すぐ清水社」「西 すぐ法華山 姫路」「南 大門 屋渡」「北 すぐふけ 北条」と刻んであります。かつて、西国霊場巡礼の旅をする

人々、山陽と大坂を往来する商人が、この道標を目印に行き先を確かめながら旅を続けたことでしょう。

47. 河高のへんろみちの道標

2008年09月21日



滝野南小学校（加東市高岡）の運動会に向かって、加東市河高の国道372号線を走っていると、JR加古川線社町駅近くの道沿いの消防ホースの格納箱の隣に道標が立っているのに気づきました。この道はもう何十年と走っているのですが、これまで道標の存在に気づかなかったのが不思議です。

車を降りて道標を見てみると、行き先を指した手、そして、「へんろみち」「次ハ加東四国三十四番」と刻まれていました（写真）。下の方に施主の名が刻まれていますが、はっきりとは読み取れません。この道標は加東四国八十八ヶ所霊場巡りの道標だとわかりました。

加東四国八十八ヶ所は四国八十八ヶ所霊場を加東郡（旧）に写したもので、一番が光明寺（旧滝野町）で、旧加東郡（現加東市と小野市域）の寺を結び、八十八番の持宝院（旧社町）までが巡拝順路になっています。大正時代につくられたものですが、江戸時代にもあったようです。三十三番が加古川の東の貝原、そして川を渡って三十四番が河高になっています。121ヶ寺、140キロに及ぶ巡拝路。この道標は巡礼の人々の大切な目印になっていたんですね。

48. 山田錦の里の道標－東条岡本

2008年09月28日



28日（日）、東条山田錦の里探訪ウォークに参加しました。12キロのコースを想像していたよりも速いペースで歩き、ゴールの東条温泉とどろき荘に近い岡本の公民館近くの道を歩いていると、交差点の電柱の脇に一本の道標が立っているのが目に入りました。

「右 大さか ありま 道」「左 たんばみち」と刻んであります。この

道は大坂道で昔から多くの人がこの道標を目印に旅をしたことでしょう。一緒に歩いていた東条の方も「こんなところにあったんやなあ」と道標との出会いを喜んでおられました。歩いているとこういう楽しみがあります。今日は山田錦の豊かな実りと、多くの人々と、そしてこの道標との出会いがありました。

49. 田中の遍路道の道標

2009年01月02日



旧国道175号の加東市松尾の信号から西へ、田中地区へ向かう道を走っていると集落に入るすこし前に分かれ道があります。そこには電柱が立っているのですが水路との間に、電柱に

もたれ掛かるように一本の道標がありました（写真）。

車をおりて表面を見てみると、浅い彫りで「加東郡四国」「へんろみち」「次第八十五番」と刻まれていました。これは加東四国八十八ヶ所霊場巡りの道を示す道標であることがわかりました。八十五番は田中の薬師堂で、八十八番の社の持寶院まであと少しという所です。

今は建物や国道175号などの構造物で見通しが悪くなっていますが、私が小さかった頃、昭和30年代には広々として一面の田圃が続き、その中に点々と集落がある、そんな風景だったように記憶しています。次は家原赤岸の観音寺、北の方向に見渡せたのではないかと思います。

役目を終えて静かに休んでいるようにも見えるこの道標。今は登下校する小学生や中学生を朝晩見守っているのかもしれませんが。

50. 山国源ヶ坂の道標

2009年01月29日



加東市社と山国を結ぶ旧道は圃場整備等でずいぶん変わってしまったそうですが、市街地から下川を渡って、山国の熊野神社に至る坂道は源ヶ坂(げんがさか)と呼ばれています。字名も源ヶ坂だそうです。

源ヶ坂の由来は、源平合戦で有名な一の谷の合戦の前哨戦であった三草山合戦で源義経が平家を急襲し、逃げる平氏を追ってそのまま社辺りまで来て、さらに一の谷に向かった道であるという伝承にあるといわれています。下川という名も「白川」がなまったもので、陣を張った源氏がこの川の水で米をといで川が白く濁ったのでその名がついたという伝承もあります。

さて、その源ヶ坂を熊野神社から少し下った道の脇に道標が立っています。「左上 小田大深山 右下 小田浄土寺」と刻んであります。「文政」の文字が見えますので、今から約180～190年ほど前の古いものです。元は今の位置ではなく、もっと下にあったという話も聞きました。

51. 吉井の道標―電柱の脇に

2009年02月02日



1月31日、加東市吉井の住吉神社辺りを車で走っていると、曲がり角の電柱の脇にいかにも道標らしき石柱が立っているのが目に入ってきました。車を止めてそばに寄ってよく見てみると、長い年月の間、寒暑にさらされてきたためか表面は字も読み取ることができないほど剥がれているというか、すり減っている状態でした。かろうじて、一つの面に

「左 中□ 」と彫られているように見えました。ちょうど、住吉神社へお参りされるお年寄りの女性が通られたので尋ねてみま

したが、古いものだということしか分かりませんでした。

帰宅して『東条の道標巡覧記』（東条の歴史を掘り起こそう会著）で調べてみると、やはり道標でした。そして、「左 中山 大坂」
「右 社□□ □」と彫られているということでした。

52. 新定の地蔵さん前の道標

2009年03月14日



加東市新定にあるという
忠魂碑をさがして県道小野
藍本線の東条診療所の向か
い側の小道に入っていった時、
すぐ左手にこんもりと茂っ
た木の下に塀で囲まれた一
角があり、そのそばに太く
どっしりとした道標が立っ
ているのが目にとびこんで
きました。

県道から入ってすぐの所なのにまるで別世界のような静けさと
厳かさが漂っていました。そこには石仏が祀られていました。石
仏の後ろにはさらに古そうな同じ大きさ、形の石がありました。
もちろん、それが「砂子の地蔵さん」として親しまれていること
はあとで調べて分かったことでした。

さて、この道標には「右 やし路北条」「左 姫路高砂」と深々と
刻んでありました。実に立派な道標です。慶応三年の建立とあり
ますから、王政復古の大本営が出された記念すべき江戸幕府終
わりの年に建てられたんですね。

この県道を何度も何度も車で走っていましたが、ちょっと脇の古い小径に入るとこんな歴史的な空間が今も静かに在ったんだと分かれると嬉しくなってきますね。

今日のブログは600回目の記念すべき投稿となりました。これからふるさと加東の歴史再発見続けていきます。

53. 依藤野の道標－交差点改良で再デビュー

2009年04月03日



2年前の19年3月7日付のこのブログで紹介した「依藤野の道標」が、交差点改良工事で、よく目立つ位置に設置され、これから先も新しくなった交差点で立ち続けることになっています。

加東市社から嬉野、依藤野を越えて東条の厚利を結ぶ県道が兵庫教育大学や県立嬉野台生涯教育センターへの道と分岐する依藤野の交差点の改良工事がほぼ完了し、新たに信号も設置されています。この改良工事のためにこの交差点にあった開墾記念碑や道祖神などの石造物が移動されましたが、道標が以前よりよく目立つ場所に設置されていました。

道標には、「右 やしろ ほつけ山」「左 大深山 小田」と刻まれています。建立年などはよく読みとれませんが、法華山は加西市一乗寺、大深山は加東市松沢の東福寺で、依藤野を往来する人々の大切な目印だったのでしょう。

道標の再デビュー。これからはこの交差点を通る人々に依藤野の歴史を伝えていってくれることでしょう。なんだかとても嬉しくなっていました。

54. 依藤野交差点の道標―もう一つ

2009年04月03日



昨日のブログで、加東市依藤野の交差点改良に伴って道標が目立つ位置に立てられて再デビューということを紹介しましたが、同じ交差点にもう一つ、古い道標の頭頂部だけが立てられているのが目に止まりました。

高さは30センチメートルぐらいでしょうか、ちょうど道標の最上部で仏具のようなものが彫られ、その下に「左」、「右」という字が彫られています。残念ながらその下はありません。それにしても、こうした道標の一部も大切に新たに設置されていることが嬉しくなりました。

55. 200年前の道標―嬉野台生涯教育センターの庭に

2009年05月12日

兵庫県立嬉野台生涯教育センター（加東市下久米）の事務棟・食堂の北西側になだらかな傾斜をもって広がる庭にぽつねんと一本の道標が立っています。

表面は白くなって相当古そうな道標ですが、建立年は「文化五年」と刻まれています。西暦1808年ですから、今から200



年も前のことになります。道標には「右大ぶか」「左くにより」と刻まれています。嬉野台地にはこうした道標が今も多く立っており、台地を通り抜ける人々にとっては大切な目印の役割を果たしてきたことでしょう。

この道標が立つ生涯教育センターは今年設立30周年を迎えます。30年前のセンター建設用地内のどこかに立っていたのですが、その後はこの庭でセンターを訪れる多くの人々を迎え見守ってきたことでしょう。ただ、この道標に気づく人はそう多くなかったのではないかと思います。30周年を機に利用者の皆さんにぜひこの道標の存在を知ってもらいたいなと思うところです。

56. 草の中から―嬉野の道標

2009年06月05日



加東市のほぼ中央、嬉野台地の田圃でもいよいよ田植えが始まりました。田植え前には用水路の掃除、畦の草刈りが行われ、美しい田園風景が現れます。そんな景色を見ながら車を走らせていると、嬉野南のバス停脇のいつも見ている道標のすぐそばに、石柱が横たわっているのが目に飛び込んできました。車をUター

ンし、戻ってよく見てみると、字が刻んでありました。やはり道標だったのです。

立っている道標については、2年前の3月6日のブログで紹介しました。この道標には「右 木なし 新まち」「左 やしろみち」と刻まれています。「前は2本あったけど、今は1本しかない」と聞いていました。実は、もう1本はすぐそばに倒れていて、しかも草にかくれて見えなかったんですね。

土ぼこりや草を払うと、表面に「右 きなししんまち 左 やしろみち」と刻まれた字がはっきりと出てきました。どうして横倒しになっているのか理由は分かりませんが、無くなったのではなくてよかったと思います。まあ、長い間立っていますからね。ちょっと横になって休んでいるんでしょう。

57. 上三草―大坂街道の道標、ごゆっくり

2009年07月16日



加東市上三草、やしろ国際学習塾から旧京街道を少し上ったところに旧大阪街道と交わる地点があります。京街道は京都から篠山、上鴨川（加東市）、上三草、社、河高、高岡を経て

姫路に通じるもので、昔から重要な幹線道路でした。また、大阪街道は、山陰地方から西脇市、加東市の曾我、三草、横谷を通

って、吉川(三木市)を経て大阪に通じる道路です。

この2つの道が交差する地点に、火の見やぐらと古い消防団器具庫があり、その前に立派な道標が立っています。道標には「すく 大坂」「すく きよ水 三里」「すく た可郡」「すく ほつけ山 五里」と刻まれています。そして、三草川を渡るその橋は「大阪橋」。まさに大阪街道だった証拠が残っています。この道標については、この歴史ブログでもすでに紹介しています(2007年2月6日)。

その大阪橋を渡ってすぐ、田圃のそばに不自然に石が置いてあります。この石は自然石のようですが、一つの面に「右 大さか」と刻まれていました。道標だったのです。地域の方の話では、圃場整備をしたあと、この場所に置いているが、元はもう少し東の畑の分かれ道の脇にあった、ということでした。

大阪街道の名残りの道標は今役目を終えて田圃の脇で寝ています。そんな道標に思わず「ごゆっくり」と声を掛けたくなりました。

58. 東条一山田錦の里の道しるべ

2009年09月28日

27日、酒米の王様「山田錦」の特A地区と知られる加東市の東条地区で「東条山田錦の里探訪ウォーク」が開催されました。彼岸が過ぎても暑さは夏日。日陰に入ると風が心地よいのですが、歩くにつれ汗びっしょりでした。

さて、去年はコースの岡本地区で電柱の側に立つ道標を見つけてこのブログで紹介しましたが、今年は長井地区で並んで立つ道標を見つけて写真に撮りました。



3本に見えましたが、小さな石が左右にありこれらも道標のように見えました。ウォークの途中だったのでとどまってじっくり読めませんでした。が、「四国西国・・・」「四国八拾八・・・」などの

字が刻まれているのはすぐに分かりました。昔の巡礼道に立てられていたものでしょう。その同じ道を今はこうしてウォーキングで楽しみながら歩いています。

写真を拡大してみると、「四國西國供養・・・」「右 三田 左 今寺清水」、「加東四國」「八十八ヶ所」、「四國八拾八ヶ所巡・・・」「村内安全」、「右・・・」「左・・・」などの文字が読み取れました。

59. 田中の道標

2009年12月01日



加東市田中の国道175の側道脇に道標が立っています。この道はこれまで何度も通っているはずなのになぜか気づきませんでした。

正面には「第三十七番 西 野村」「第三十二番 トリイ」「第三十一番 北 イエハラ」「第八十五番 田中村」と刻まれています。側面には、大正十年三月二十一日の日付と施主の神

戸市大手前の平井、前川という名前が刻まれており、これは加東四国八十八ヵ所霊場の巡礼のために建てられた道標だと思われます。トリイは鳥居、イエハラは家原のことで、各霊場までの方向、位置関係を示す場所に立てられたものと考えられます。

今では国道175の側道にひっそりと立って、飛び出し坊やの看板と一緒に道行く子どもの安全を見守っているように見えます。

60. 高岡の巡礼道標

2010年01月08日



7日、加東市高岡の旧道を走っていると、狭い道路の民家のブロック塀に密着するように一本の石柱が立っているのが目に入りました。あっという間に通り過ぎてしまったので、バックで車を戻しました。しかし、前から車が来るし、後ろからも宅配の車が見え、狭い旧道ですから一端前進してやり過ごしました。方向転換して再度道標のところまで戻ってじっくり見ることができました。

石柱には「左 日本一□善導大師道 是ヨリ壺里」と刻まれています。□には幅の字があったと思われるのですが表面が剥がれて判読できません。側面に「天保三辰八月」の建立年があり、今から178年前の西暦1832年に建てられたものと分かりました。

旧道からブロック塀の脇にさらに細い道があり、昔からこの場

所に立っていたのなら、ここから左に曲がって進めば一里で日本一幅善導大師の五峰山光明寺に着くことができるというわけです。光明寺は加東四国八十八ヶ所霊場の第一番霊場で、播磨高野の名で知られる名刹です。

61. 下久米―三草坂の道しるべ

2010年01月17日



15日、小寺彦兵衛さんの頌徳碑修復竣工開眼供養に出席した折、開式までに少し時間があつたので、頌徳碑のある三草坂を少し歩いて山の方に上がってみました。軽トラック1台がかるうじて通ることができるほどの狭い急坂道です。少し上ったところに池があり、その曲がり角に1本の道標が立っていました。小さな道標で、近づいて

よく見ると、上部に指を差した手が、そして、その下に「へんろみち」と刻まれていました。側面に「北さ□大し二丁半」と刻まれています。

夜、家で調べてみると、加東四国八十八ヶ所霊場の二十四番浄泉寺(下久米)、二十五番東光寺(上久米)と二十六番小山庵(藤田)の間に、「霊地 八坂八濱鯖大師 観音所」がありました(『加東郡誌』)。「鯖大師」か、と刻まれた字を思い出しながら思いました。

「鯖大師」。これは四国別格霊場の第4番札所の鯖大師(徳島県海部郡海陽町)のことだとわかりました。弘法大師が開かれた霊地で、鯖を3年断って願い事をするると成就する、ということです。

霊地へ足をのばす時間はなかったのですが、ぜひ一度歩いてみたいと思いました。加東四国霊場巡りは、四国八十八ヶ所霊場を加東郡（現加東市、小野市域）に写したものです。各地に残る霊場巡りの道標、そして札所のお堂など、かつて多くの巡礼の人々が歩いたこの道を今に、そして未来に伝えていきたいという思いを強くしました。

62. 大畑—半分の道標

2010年07月24日



加東市大畑の県道神戸加東線の小野市との境のすぐ近くを走っていると、消防団詰所脇の溝とフェンスの基礎のブロックとの間に道標のような、しかし背の低い石柱が目にとびこんできました。ふ

だんは気がつきませんでした。車を止めて近寄ってよく見みると、上半分がなくなっている道標のようです。高さは50センチほどあるでしょうか。表面にうっすら見える字は「西國」「供養」「同・・・」のようです。西国巡礼の道標だと思います。

梅雨が明けてまぶしい夏の陽射しと緑の草に埋もれるように、この半分欠けた道標がひっそりと立っている。県道周辺の山林からはひぐらしの鳴き声が聞こえてきます。何か昔にタイムスリップしたような静けさを感じました。

63. 上三草の善導大師道標

2010年10月28日



加東市鴨川からの帰り、国道372号から馬瀬を過ぎて、旧道に入り、山口を通して、上三草の家並みが続く辺りを下っていると、右手の一角に大きな石柱が立っているのに気がつきました。また、そのすぐ側に南天の木が繁っており、よく見ると、その中に道標がありました。

石柱には「善導大師道」と刻まれており、滝野の光明寺への参拝道を示しています。また、南天の木を手でよけて見ると、道標には「左ほっけ・・・」と刻まれているのが読み取れました。

この旧道は京街道とよばれ、京都から播磨へと抜ける街道であり、西国三十三番霊場の巡礼道でありました。各所に法華山（ほっけさん）、清水（きよみず）と刻まれた道標が建てられています。また、この旧道をもう少し下ると、大坂街道と交わる所があります。滝野へとつながっていますから、「日本一幅善導大師」光明寺への参拝道でもあったのでしょう。

64. 上滝野の道標—善導大師千二百五十年忌記念

2011年05月07日

加東市上滝野の旧市街の路地を歩いていると、ブロック塀の前に一本の道標が建っていました。車が入れない道で、たまたま歩いていて出会った道標に思わず嬉しくなってシャッターを切りま



した。

道標には「善導大師千二百五十年御遠忌記念」「右 野間谷 左 光明寺」と刻まれています。この細い道は光明寺へお参りする古い道だったのでしょう。善導大師千二百五十年といえ、調べてみると昭和5年（1930年）にあたります。今から約80年前の昭和初期に建てられた道標のようです。野間谷は現在の西脇市。この道標

を西に向かって立つと、右は北の野間谷へ、そして左は正面の五峰山光明寺につながるというわけです。

善導大師は唐の高僧で、三幅の自画像を描き、唐、天竺、日本に一幅ずつ留めた（『新修加東郡誌』）うちの一幅が光明寺の塔頭寺院の大慈院に納められているということです。

65. 高岡の道標－異国船打払令のころから

2011年05月22日



加東市高岡の旧道沿いに一本の古い道標が立っています。もう草が伸びて下部は見えなくなっています。表面もところどころ剥がれて刻まれた文字もはっきり読み取れません。

それでも側面には、文政八年と刻まれています。西暦1825年

にあたるので、今から185年前のこと。歴史の教科書では異国船打払令が出された頃です。

今は狭い旧道を車が走っています。脇の田圃では農家の人が畦の草刈りの最中でした。よく通る道で、気になっている道標でした。

66. 光明寺への道

2011年06月04日



加東市役所滝野庁舎がある五峰山の南山麓の高台には、県立播磨中央公園、滝野文化会館、滝野公民館、滝野図書館などが一ヶ所に集中し、そこに立てば、東から南にかけて、遠く六甲連山、播磨平野、加古川の流れが一望できます。図書館には郷土資料コーナーがあり蔵書も充実しています。

その滝野庁舎から播磨中央公園を見ながらさらに西へ車を走らせると、五峰山方面への道があり、その入り口に一本の道標が立っています。「左 光明寺 善導大師 是ヨリ十三丁」と刻まれています。五峰山光明寺への参道だったのでしょう。側面には、「明治三十九年四月建之 施主村内信者中」と刻まれています。

67. 藤田の急坂の道標

2011年09月19日



19日(月)の朝、加東市藤田の集落から台地の藤田南地区につながる旧道の急坂を車で上っていると、坂道のちょうど真ん中あたりで西側の崖のきれいに草が刈られたその中に花を供えられた小さな石碑があることに気づきました。少し行き過ぎてからバックで坂道を下り、車から降りて確かめました。

供花されているのでお地藏さんかと思いましたが、最上部に仏様の坐像が彫ってあり、下部に「左 山国 右 やしろ」と刻まれている道標でした。元からこの位置にあったのかどうか、また、建立年もわかりませんが、社方面、山国方面への分かれ道に建てられたのでしょうか。しかし、中学時代からよく知っているこの急坂、そして、大人になってからも本当によく車で通っているのに、この場所に道標があることに気づきませんでした。

この坂は千鳥川(久米川)から嬉野台地を一直線に結ぶ坂で、相当急な傾斜の坂になっています。私が社中学校の生徒だった頃、冬になると筋トレだといってはこの急坂でダッシュやうさぎ跳びをやられました。また、長距離走の途中でこの坂道を走って上り、まさに心臓破りの坂の名がふさわしい急坂でした。今でも社中学校の生徒や社高校の生徒がこの坂道でトレーニングをしているところに出くわすことがあります。

また、この坂の東側は谷になっており、一帯にどんぐりの木が生えていて、その頃からクワガタやカブトムシを捕りに来ていました。坂を下りきったところは千鳥川が深い谷の底を流れていて、大蛇伝説に因んで逆さま川と呼ばれている急な蛇行の辺りにあります。

68. 小沢の道標―へんろみち

2011年11月13日



加東市のほぼ中央部には嬉野台地が広がっています。その台地を社と東条を結んで県道が走っています。この県道を東条川に沿って走る県道小野藍本線から西に向かって走ると、しばらくして小沢の公民館が右手に見えます。銀杏が色づいて秋の光にまぶしく輝いています。さらに左右にゆっくりくねりながら走り、行く手に嬉野台地の東端と坂道が見えます。この辺りは加東市小沢と栄枝の村境になり、右手には中世の山城、小沢城があった小高い山が見えます。

これから紅葉がこの山里にも訪れ、目を楽しませてくれるはずです。さて、この県道のすぐ脇の旧道との交差点に一本の道標が立っています。これまでまったく気づきませんでした。余りにも見晴らしが良すぎて気づかなかったのでしょうか。車を旧道に入れて見てみました。

表面に刻まれた文字はよく判別できません。それでもしばらく

見ていると、「へんろみち」と読めます。帰宅して調べてみると、加東四国八十八ヶ所霊場巡りの道標であることがわかりました。かつては巡礼の人々が歩いてこの旧道を通ったのでしょうか。今は県道を車が疾走していきます。今日、この道標に出逢えたことが何だか嬉しくなりました。

69. 参道脇に折れた道標横たわる

2011年12月23日



佐保神社（加東市社）の参道の脇の公園の中に道標が倒れているという話を聞いて、朝のウォーキングの時に捜してみました。毎朝歩いているのに参道から外れているのでまったく気が付きませんでした。そこには無造作に2つに折れた道標が横たわっていました。周囲はほうきで掃いたあとがありました。

道標には「右ほつけ山」「左極楽山浄土寺」と刻まれています。どこに立てられていたのか、なぜ、この場所に倒れているのかわかりません。詳しいことを調べてみたいと思います。それにしても、こんな身近なところにあったとは。※この折れて倒れた道標は平成27年に修復され、参道入口に再建されました。

70. 野村のお堂の道標

2011年12月25日



加東市野村に「野村のお堂」と呼ばれて親しまれている加東四国霊場の第三十七番極楽堂があります。

この境内に大きな道標が立っています。(写真) 地元の方の話では元の場所から移したということでした。「左 きよみず、右 ほつ

け山」と刻まれており、建立年は寛政9年(1797)です。今から200年余り昔になります。西国三十三ヶ所霊場巡りの道筋だった野村に建てられたものだったのでしょうか。きよみずとは、二十五番霊場御嶽山清水寺(加東市平木)、ほつけ山とは二十六番霊場法華山一乗寺(加西市坂本)のことです。

今はもう役目を終えてこのお堂の境内にほんの少し傾いて静かに余生を送っているように見えました。野村は丹波から播磨を結ぶ京街道が村中を通り、加古川を渡る渡し船があった村です。その昔の姿を今に伝える大切な記憶を背負って今も立っている、そんな存在感も感じました。

※野村のお堂の道標は、2007年2月2日投稿記事もあります。

71. 巡礼道—福吉の道標

2012年01月06日

加東市福吉から出水に向かって旧道を行くと、福吉の東の集落



の四つ辻に2本の道標が立っています。

写真の道標は手の矢印が出水の方角を指しており、刻まれている字はうっすらと「加東四国」「へんろ道」と読めます。この道標は加東四国八十八ヶ所霊場めぐりの道標だったのです。第四十番福吉の阿弥陀堂から四十一番出水の施薬庵（薬師）への道筋にあります。往時はこの四つ辻を多くの人々が歩い

たのでしょう。

72. 高岡の道標

2012年01月13日



加東市高岡の台地から河高の安取へと向かう旧道をゆっくり走っていると、坂道にさしかかる手前で道が分かれているところに一本の道標が立っているのに気づきました。

車を止めて道標を見ると、表面の文字はだいぶ読みづらくなっていましたが、「左きよみず 右 □□り たかさご」と刻まれています。江戸時代、高岡は播磨と京都を結ぶ京街道の道筋にあたり、この街道を往来する人々にとってこの道標は大切な目印になったことでしょう。

73. 廻渕—お堂の前の道標

2012年01月17日



加東市廻渕の朝光寺へ向かう道と東条おもちゃ王国へ向かう道と分かれ道の北側の山の中腹に真新しいお堂が見えます。

これは阿弥陀堂ですが、地元の人は「お大師さん」と呼んでいます。昨年の秋に少し下からこの場所に新築移転されたとのこと。お堂には阿弥陀如来とお大師様が祀られ、加東四国八十八ヶ所霊場の番外の霊場になっています。第二十二掎鹿寺から廻渕の阿弥陀堂、畑の大師堂を経て、二十三番朝光寺へと巡る途中の霊場になっているのです。

地区の人の話では、かつてこのお堂の建てられた場所には、村の保育園があったということでした。写真の道標は、このお堂の入口の傾斜のところに建てられています。

上部に仏像が刻まれ、その下に「左 □□□・・・」と文字が刻まれているのですがよく分かりませんが、霊場巡礼の道案内の道標だったのでしょう。

74. もう一度、貝原の道標

2012年02月09日

加東市貝原。現在、国道372号の野村河高バイパスの工事が進められていますが、加古川を跨ぐ新橋、加東大橋の東詰から少し下った交差点に貝原薬師堂があります。



この薬師堂の境内にはムクの大木があり、このブログでも紹介しました。さらにけやきの大木もあり、小さな祠も祭られています。そのけやきの大木の根元に、まるでもたれかかるように2本の石柱があります。

一本は道標、もう一本は玉垣のようです。以前にも紹介しましたが、道標には「右 きよみづ」「左 □(志)ん町 たか郡」と刻んであります。また、「加東四国 第三十三番霊場」「文政七申四月立」「四国同行中」と各面に刻んであり、西国三十三ヶ所霊場の巡礼や加東四国八十八ヶ所巡礼に関係のある道標だったのでしょ

う。文政七年ですから西暦1824年。今から188年前に立てられた古い道標です。第三十二番の鳥居の観音堂からこの薬師堂、加古川を渡って、次の三十四番の河高へと人々が巡礼の旅を続けたのでしょ

75. 加東四国へんろの道標ー吉井

2012年02月18日

東条西小学校の校門から山側に向かって少し行くと、旧道に出ます。右折して新定方面へと少し行ったところ、道路脇の田圃の



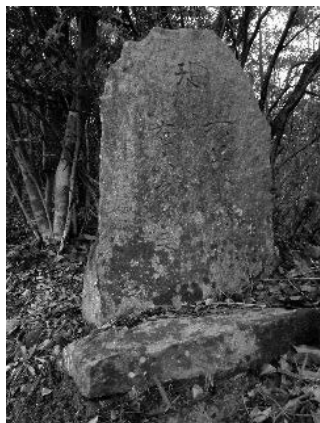
畦の斜面に一本の道標が立っていました。その旁らに半分ぐらいの石が添えて置いてあり、これも古い道標のように見えました。

道標には頂点に指さしの手が、その下に「加東準四国道押発願者 兵・・・」「へんろみち」「出谷・・・ 酒牧・・・ 川上・・・」「第□□一番」と刻まれています。近くに吉井の薬師堂があり、次は七十一番の小沢の

大日堂なので、「第七十一番」への道を指す道標だったのかもしれない。

76. 百年目の道標—やしろの森公園近くで

2012年02月20日



加東市上久米の県立やしろの森公園のそばを通る県道西脇口吉川神戸線を走っていると、道路脇に置かれた石が目に見え飛び込んできた。道標だ、と思って降りて見てみるとやはり自然石の道標でした。もちろん以前からこの石の存在には気づいていましたが、あらためて刻まれた字を読んでみると、何とちょうど百年前の明治45（1912）

に建立されたものでした。「明治四十五年四月 施主 西山弥三郎」と刻まれていました。表には「右 上久米大日」「左 下久

め三草」と刻まれています。

百年前と同じ場所かどうかわかりませんが、百年前に建てられたことはたしかです。

77. 東条—永久橋の道標

2012年02月25日



加東市の東条地区を流れる東条川にそって県道小野藍本線が走っています。森尾から対岸の岡本へ渡る永久橋が架かっていますが、その森尾側にミニ公園があり、女性像やベンチが設置されています。

赤信号で止まっていると目に入るのが、道標です。大きな自然石の道標と、背の低い小さな道標？2つ。自然石の上部が向かって左へと大きくカーブしており、これを生かしたような形で、その正面に「左 相野丹波 右 三田大阪」と刻まれています。上部には光と仏像が刻まれています。側面にはこの道標の建立者の名前も刻まれていました。

橋を渡ると、体育館、とどろき荘、公民館などの施設があり、よくこの橋を渡るのですが、いつも気になっていた道標です。今日は車を止めてシャッターを押しました。

78. 田町地蔵尊―道標が門柱に

2012年04月07日



加東市社の市街地の中心から東に向かってのびる田町通り（たまち）。かつては商店が軒を並べる賑やかな商店街でしたが、今では一方通行となり、商店も激減、静かな住宅街に姿をかえています。

その田町通りの東の入口に田町地蔵尊が祀られています。法蓮寺（ほうれんじ）と路地をはさんで隣接し、小さな祠とブロック塀、そして門柱が立っています。今は住宅地になっていますが、かつては、この場所は道池（三ツ池ともよばれた）大きな池があり、その堤の下辺りになります。丹波から播磨へと通じる京街道が通り、西国三十三ヶ所札所の巡礼道でもありました。社の村、そして田町通りはその宿場町として賑わったとも伝えられています。

その名残りをこの田町地蔵尊の門柱になっている道標に見ることができます。「左 きよみづ」「右 大さかみち」正面には「南無阿弥陀仏」と刻まれた堂々たる道標です。

※この道標は、2006年9月14日投稿記事でも紹介しています。

79. 上久米の道標―鯉のぼりの下に

2012年05月07日

5日、県道西脇三田線から鯉のぼりが見えたので、その方向



へと上久米の集落へ道を入っていくと、電信柱の根元に先の尖った部分に梵字の彫ってある自然石が目にとまりました。もしやと思い草をかき分けてみると、やはり道標でした。土から上の部分に「右大坂 左 きよ（みず）」と刻まれているのが読み取れました。側面

には「天保十五年」の文字が刻まれており、今から約170年前に建立されたものとわかりました。コンクリートの太い電信柱のすぐ脇で余り目立ちませんが、長い年月の間、この場所に立ち続けていたんでしょか。写真を撮っていると、少年が自転車で走り抜けていきました。

80. 石燈籠の道標—善龍院

2012年05月11日



加東市社の善龍院の境内には2本の道標があります。この歴史ブログで紹介したことがあります。旧社町で最も古いとされている、寶暦12年（1762）建立のものと、もう一本、円柱の道標があり、2本とも「右きよみず」「左ほつけさん」と刻まれています。西国三十三ヶ所札所巡りの御嶽山清水寺と法華山一乗寺を目印として

街道筋に建てられていたものでしょう。

その2本が境内に保存されていることは知っていましたが、その脇に立っている石燈籠をよくみると、文字が刻んでありました。「右 きよみずへ」。道標だったのです。円柱の道標を燈籠にしたのか、元々燈籠式の道標なのか、分かりません。建立年もありません。しかし、道標であることは確かです。西国三十三ヶ所巡りの道標が今はその役目をおえてお寺の境内で静かに余生を送っているのですね。

81. 安国寺への道標―新定

2012年07月24日



加東市新定の県道小野藍本線から東条川を跨ぐ高橋を渡ってゆるやかなカーブの上り坂に入る手前の分かれ道に一本の道標が立っています。

「安国寺」と刻まれています。安国寺は

室町幕府第6代将軍の足利義教の首塚（宝筐印塔）があることで知られる臨済宗の寺で、加東四国八十八ヶ所霊場の第六十九番霊場でもあります。この道標は「加東四国のへんろみち」を示すものです。指を指す手の下に「左 六拾九番札所」と刻まれています。

この道を通る時に必ず目に入るこの道標。今日は久し振りに車を止めて写真を撮りました。

82. 東古瀬の道標と小祠

2013年01月04日



3日朝、加東市東古瀬の集落から北に向う道路と東西に走る道路が交差する交差点にある石造の小さな祠と一本の道標が朝日に照らされて立っている姿が目にとまりました。

5年前のブログで紹介した道標ですが、今年も元気であるんだと安心しました。

道標は上部が破損してなくなっていますが、「ぐ」の文字がくっきりとみえます。

「すぐ」の「す」がなくなっているのでしょうか。「まっすぐ」の意味です。道標の四面には、「すぐ あかし みき」「すぐ やしろ たきの」「すぐ 小田 □□」などの文字が刻まれています。東西南北に道路が交わっていたことを示していますが、道路や田圃が整備されているので、元々この位置だったかどうかわかりません。

※2007年4月17日投稿記事と同じ道標です。

83. 文化財室の敷地に道標—やしろ歴民研で

2013年01月27日

26日（土）、加東市の社公民館でやしろ歴史民俗研究会の例



会があり、久しぶりに出席できました。テーマは「加東市の道標」で会員の藤本義秀さんの研究発表でした。実際に足で調査をされた詳細なデータを元に市内の道標について、その位置、建立年代、

型式種類などを分類された研究成果の発表で、大いに参考になりました。

その中で、市内には倒れたままになっている道標なども少なくなく、「立て直そう」と呼びかけておられた。これも大いに賛同するものです。この歴史ブログでもそのような常態にある道標を紹介してきました。帰りにその一つとして紹介された文化材室の敷地に仮置き状態にある道標を見てきました。3本が敷地のコンクリート壁の前に立てられ、その一本には「右 老松町 大師堂」「左 法華山 姫路」と刻まれています。建立年は昭和八年でした。老松町、大師堂とは加東市社の一区辺りの旧地名で、持寶院大師殿を指しているものです。大正時代に加東四国八十八ヶ所霊場巡りが復活してその巡礼道に立っていたのでしょうか。

84. 表面が剥がれた古い道標—東条の岡本で

2013年01月28日

加東市岡本地区の道を車で走っていると、民家のブロック塀の前に一本の道標が立っているのに気がつきました。車から出てよく見てみると、やはり道標でした。天辺は屋根のように三角、上



部に座像が刻まれていたようです。その下の文字を読もうと思ったのですが、うっすらと「右」「左」の文字が見えるか見えないか、といった状態で、その下は表面が剥がれてしまっていました。今朝も冷たい凍えるような朝でしたが、風雪にさらされてきたのでしょう。

夜、調べてみると文政13年（1830）建立とありました。
183年も前に建立されたものでした。

85. 東条、森の道標—赤いよだれ掛けを着けて

2013年01月29日



加東市森（元東条町）の中国自動車道の南側に位置する旧道を車で走っていると、曲がり道のところに小さな祠のようなものがあり、その中に大小2本の石柱が赤いよだれ掛けを着けられて立っ

ているのに気がつきました。お地蔵さんかと思ってよく見ると、角柱で道標のようです。

左側の背の高い方の上部には仏さんの坐像が刻まれていて、その下にかろうじて右、左の文字が読み取れます。小さい方はわか

りません。ちょうど、地元の方が歩いて来られたのでお尋ねすると、およそ60年前にこの地に嫁いできたときにあったから昔からあったんやろ、と話してくださいました。

これも家で調べてみると、背の高い方は天保11年(1840)建立で「右 ひょご 吉川」「左 ありま 大坂」と刻まれているということです。今はもう道標の役目を終えて、屋根付きの小屋の中で静かに道行く人と村を見守っているようでした。

86. 加東四国八十八ヶ所霊場―東光寺門前の道標

2013年02月12日



2月11日、加東市上久米の東光寺では大日如来祭、通称大日たん(だいにったん)が盛大に行われました。この祭りでは寺の前の田圃で山伏による護摩焚きが行われ、参拝者が無病息災を願って火渡りをします。護摩焚きが始まると、寺の前の道にはそれを見守る参拝者で混み合います。ふと、足もとを見ると、道標が立っ

ていました。毎年参拝しているのに今まで気がつきませんでした。

道標には、「左 第廿四番 浄泉寺」「右 第廿五番 東光寺」と刻まれています。また、「大正七年四月建立 施主 当所 岸本繁三郎」と刻まれていました。大正時代に加東四国八十八ヶ所霊場巡りが復活し賑わった頃に建てられたものでしょう。今は東光寺の門前で静かに参拝者を迎えているようでした。

87. つつじ満開のすぐ脇に道標—やしろの森公園

2013年04月10日



加東市上久米の県立やしろの森公園の駐車場の近くの道路脇に2本の石柱が寄り添うように立っているのが目に入りました。公園を巡る散策道がありちょうどコバノミツバツツジ

が満開で春の光に美しく光っていました。

この石柱は道標で、以前にもこの歴史ブログで紹介したことがあります。あらためて読んでみると、「すぐ栄枝 大深山」「北久米の大日□□」の文字が大きく刻まれています。昔は上久米の大日さん（東光寺の大日如来祭）や大深山のお寺にお参りする人々がこの道を歩いたのでしょう。側面には「左 上久米村 清水」「右 辻の地藏 天神□」といった地名も刻まれています。

小さい方は古いようで時が読み取れませんが、今はつつじを見に訪れる人々を2本の道標が見守っているようです。

※2008年4月19日投稿の道標と同じものです。

88. 播州清水寺の道標

2013年04月23日

21日（日）、播州清水寺（加東市平木）の桜まつりが開催されました。車で登山道を走っていると、中腹辺りで激しい雨に



見舞われました。しかし、山の天気は変わりやすく、山上の駐車場から仁王門をくぐる頃には青空からまぶしい光が差し込んできました。しかし、雨の天気予報の影響か、実際に降ったり止んだりの空

模様で人出は例年に比べて少なかったように思いました。

大講堂の手前の放生池の傍らに一本の道標が立っています。「右 なかやま」「左 なれあい」と刻まれています。これは、西国三十三ヶ所巡礼の24番中山寺（宝塚市）と28番丹後成相寺（宮津市）への道を示す道標であることがわかります。建立年は天保15年（1844）とあり、「西国供養同行中 西戸村 大川瀬村 大谷村」と刻まれています。元は他の場所にあったものをこの場所に移したものでしょう。西国巡礼の順序は24番の中山寺から25番清水寺、そして26番法華山一乗寺（加西市）となるのですが、近世には一乗寺から清水寺を経て、篠山を通して成相寺へ順番に参る逆打がさかんだったようです。

雨に濡れた道標ですが、今では訪れる多くの人々を静かに見守ってくれているようでした。

89. 廻渕の道標—お堂の入口に

2013年04月28日

加東市廻渕の朝光寺へ向かう道と東条おもちゃ王国へ向かう道



と分かれ道の北側の山の中腹に真新しいお堂があります。27日、おもちゃ王国での迷宮の城のオープン式典の帰りに天気がよかったので寄ってみました。

去年の1月にも来ましたが、お堂の下古い墓地も木が伐採され見通しがよくなっていました。もう一度石碑や道標をよく見てみようと思ったのです。地元の人が「お大師さん」と呼んでいるこのお堂（阿弥陀堂）には、阿弥陀如来とお大師様が祀られ、加東四国八十八ヶ所霊場の番外の霊場になっています。第二十二掎鹿寺から廻渕の阿弥陀堂、畑の大師堂を経て、二十三番朝光寺へと巡る途中の霊場になっています。元はもう少し下の場所にあったものを新築移転したものです。

さて、以前訪れたときにこのお堂の入口のところに立っている道標を紹介しましたが、刻まれている文字がよく判りませんでした。ところが今回は天気が良く刻まれた文字がくっきりと見えたのです。

上部に仏像が刻まれ、その下に「左 きよ水」と文字が刻まれていました。その右に建立年らしき文字が刻まれおり、「文政・・・」と見えますがはっきりしません。今は役目を終えて、分かれ道を見下ろす位置でお堂にお参りされる地元の方を迎えているようでした

※2012年1月17日投稿の道標と同じものです。

90. 上鴨川の道標―「左ほつけ」の文字が

2013年07月19日



国道372号の上鴨川の交差点を過ぎて大きくカーブしながら上っていくと、集落の端、旧道との交差点があり、その交差点の民家の前に、門柱のように一本の立派な道標が立っています。このブログでもすでに紹介しましたが、3面に「左京いせ」「右きよ水」「左ほつけ」と太く深く刻まれています。

その道標に道路をはさんで反対側に石塔が並んでいます。そのうち一本は上部に仏像が彫ってあり、その下に文字が刻まれています。表面が剥がれてははっきり見えませんが、左側には「左ほつけ」と刻まれています。道標です。

今は国道をとトラックや乗用車がひっきりなしに走り抜けていますが、昔は山道で寂しいところだったのでしょう。

91. 加東市新庁舎北駐車場の道標

2014年01月06日

加東市の新庁舎の北側の駐車場の整備工事が進められています。文化財室の建物も解体されましたが、その敷地に仮置きされていた道標はどうなったのか気になって朝のウォーキングで見えました。

この歴史ブログで去年の1月27日付で紹介しましたが、その時には確か、3本の道標が敷地のコンクリート壁の前に立てら



れていました。撤去され、移動してあるのかと思ったら、同じ場所にコンクリートの地盤に4本が立てられていました。

仏座像の下に「右 老松町 大師道」「左 法華山 姫路道」、「昭和八年五月建立」と刻まれたものが2本。「從是北 木梨村」「從是東 木梨村」と刻まれた村境の標柱が各1本の合計4本です。この辺りは社村と木梨村の境になっていました。

老松町とは加東市社の市街地の地名で、持寶院大師殿があります。大正時代に加東四国八十八ヶ所霊場巡りが復活し、大師殿はその八十八番仕上げの道場になっています。その巡礼道に立っていたのでしょう。

駐車場整備の後はどうのように保存されるのでしょうか。

92. 加東四国霊場十九番長谷地藏堂の道標

2014年02月05日



長谷を走る県道が大きくカーブするあたりの右手の高い所に地蔵堂が見えます。カーブから少し行ったところから山の向かって細い道路があり、ゆっくり車を走らせると、お堂の下に出ました。

お堂からは街道と集落を見下ろすことができ、桜の木が数本植わっています。石段や石灯籠などの石造品が境内のあちこちに見られます。灯籠には天保十年（1839）の建立年が刻まれていました。石段の下に一本の石柱がありました。よく見ると道標です。「右 十九番おくのいん 左 全立江寺」と刻まれていました。側面には施主の名も刻まれています。この道標は元はどこにあったのかはわかりませんが、この場所に移されたものでしょう。あとで調べてみると、立江寺はこの地蔵堂で、「おくのいん（奥の院）」はこの地蔵堂の裏山にある小さなお堂だそうです。

春になると、地面の草も芽を出して柔らかい絨毯になり、お花見には絶好の場所になるんだろうな思いました。

93. 加東市新庁舎北駐車場入口に道標復活

2014年05月23日



嬉野台地の西端近く、加東市の新庁舎が聳え、その白亜の姿が新緑や青い空にまぶしく映えています。

その北側の傾斜地に駐車場が整備され、旧372号からも駐車場に入ることができるよ

うになりました。その入口に4本の石柱が建てられています。車で走っていても目につきます。新しい駐車場には似つかわしくない風景ですが、うち2本は道標、2本は村境を示す標柱です。

この歴史ブログでは、駐車場が整備される以前に市教委の埋蔵文化財室があった頃に敷地のコンクリート壁の前にひっそりと置いてある道標を紹介したことがありました（写真上平成26年1月14日投稿、写真下平成25年1月27日投稿）。その道標が新しく整備された駐車場の入口に復活設置されたわけです。

かつての道と村境を示す石柱を埋もれさせることなく、歴史を伝える貴重な遺物として新しいまちの施設整備に合わせて設置されたことは本当に素晴らしいと思います。解説板が設置されればいいと思うのですが。

94. 上鴨川の道標－公民館に3本

2014年09月23日



丹波と播磨を結ぶ、加東市上鴨川の国道372号と県道との交差点近くに上鴨川地区の公民館が建っています。この公民館の南

側に3本の道標が立っているのが目に止まりました。地区内の街道沿いに建っていたものを移設して保存されているのでしょう。

真ん中の背の高い道標には「左 ほつけ山 やしろ 志ん町」「右 きよ水 三田 大坂」「左 京 いせ ささやま ふるいち」と深々と刻まれています。西国巡礼の街道筋に立っていたんですね。右側の少し背の低い道標には「右 三田 大坂 道」の字が刻まれているのが読み取れますが、表面が風化しており、左の方ははっきり読めませんでした。「文政」と刻まれており、江戸時代、およそ190年余り前の1820年代に建立されたものです。もう一つ左の道標は上部が破損しており、「きよ水」と刻まれた字だけが見えます。横には「左 京 いせ」と刻まれており、京街道で人々の往来を眺めてきたものだろうと思いました。

機会を見つけて、地区の方にこの道標にいわれを聞いてみたいと思います。

95. 山国の県道脇の北向き地藏さん

2014年10月14日



加東市山国の集落の中心部を通っている県道神戸加東線を神戸方面に向かって走ると、出水川に架かる橋を過ぎて上り坂にさしかかった右側にお地藏さんが祀られています。車

が一台止められるぐらいの広さの砂利の敷かれた平地の隅に石造

の祠と菅笠を被された小さな地蔵さんがあります。お地蔵さんに掛けられた赤いよだれ掛けは遠くからでも目につきます。このお地蔵さんは山国の集落の南に位置しており、ちょうど出水川の谷を挟んで北の方角にある山国の村を見守っているように見えます。

ちょっと失礼して、小さいお地蔵さんのよだれ掛けをめくってみると、やはり道標でした。「左 やしろ 右 きよみず」の字が刻まれているのが読み取れます。一方、石造の祠の両脇の石板の前面にも字が刻まれており、道標になっています。「左 小田□□」「右 下□ん□□」とかろうじて読めるような状態です。おそらく、小田（小野市）、下番（小野市）方面を指しているのだと思います。板の横面を見ると、建立年が刻まれていました。「文政二年」の文字が読み取れます。西暦では1819年ですから、約200年前のものです。

よだれ掛けを掛けられた小さな地蔵さんが祠の前にも4体あります。この道を通る人がいろいろな願いや祈りを捧げてきたことでしょう。今では車が走り抜けて行きます。

96. 永福（長谷）の交差点を見守る道標

2014年10月27日



中国自動車道の東条インターから東条湖へつながる道路と県道が交差する加東市永福の信号のインター側西側の斜面に赤いよだれ掛けがつけられた石柱が立っています。花が供えてあり、地蔵さんかなとも思いましたが、車を止めてよく

みると、道標のようでした。文字が刻まれていないかと思い、失礼してよだれ掛けをめくってみましたが、表面は風化していて剥がれており、文字や仏像などが刻まれているのを確かめられませんでした。側面や裏面も見てみましたが、確認できません。しかし、その高さや太さ、立っている場所などから考えて道標なのだろうと思いました。

帰宅して調べてみると、やはり道標でした。字の一部が確認されていたのです。今では地元の方から地神様として祀られているそうです。これまでよく通っていた道なのですが、気がつきませんでした。

97. 新町の道標などー未来に伝えたいわが町の歴史遺産

2014年11月06日



昨日に続いて、滝野東小学校に勤務していた時に作成した「未来に伝えたい滝野の歴史遺産ー新町」（歴史新聞風）の内容を紹介します。新町には大小の道標や旧加茂村時代の

道路元標、橋の名称碑などが残っています。これらは新町のかつての賑わいや旧道が幹線道路だった頃のようなすを伝えてくれます。ぜひ、未来に残したい歴史遺産です。

写真は、左、加東四国へんろみち道標、右、新町公民館前の道標（光明寺道）です。

98. 東条コスミックホール図書館前庭の道標

2015年01月18日



加東市天神の東条文化会館コスミックホールの図書館の入口の庭の脇に石が置いてあるのに気づきました。はじめは庭石かと思っていましたが、気になってよく見る

と、どうも道標のようです。近寄ってさらによく見ると、上部が割れたかどうかして無くなった道標で字のようなものが刻まれていました。ちょうど図書館なので郷土コーナーの『東条の道標巡覧記』で調べてみると、やはり道標でした。

同誌の記述によると、もとは東条地区貞守と少分谷の境界にあったものを工事などで埋没のおそれがあるため移設されたものがありました。上部と下部は欠けており、正面には、「貞守天神町」「右 少分谷清水」と刻まれているとのことでした。

こんな所で今は図書館来場者を見守っているわけです。今日の道標との出会いは嬉しくなりました。来場者に道標と分かるように簡単な由来などの説明を記した表示があったらいいなと思いました。

99. 枯れ草に埋もれた道標—加東市栄枝

2015年02月20日

加東市の中央部の嬉野台地を東西に貫いて東条と社を結ぶ県道の東条側、栄枝地区から嬉野台地の東端依藤野へ続く急な長い上



り坂へ入る交差点に道標が立っています。枯れ草に埋もれるように立つ背の低い道標でした。

いつも車で通っているのです

が、これまで気が付きませんでした。手前に石灯籠の石材が重ねて置かれていました。その奥に道標が立っています。

正面には「右 やしろ・・・」「左 三木・・・」と刻まれているのが読めます。側面には「四国」の文字も読めました。あとで『東条の道標巡覧記』で調べてみると、天保14年（1843）の建立だと知りました。車で通過するとき、一瞬目にとまったのですが、通り過ぎ、坂の上まで走って折り返してもう一度下ってきて車を止めて調べました。じっくり調べる時間がなかったので、次回はもっとよくみたいと思います。

100. 下三草の道標—今は役目を終え

2015年03月06日

加東市下三草の、木梨、稲尾との境に近いところ、圃場整備された田圃の中を通る道脇に背の低い道標が立っていました。下三草の方から昔の街道の話を聞かせていただいていたとき、この道標の存在を知り、近くを通り掛かったので探してみました。

正面は、仏像の下に「左 三草 右 木梨」と刻まれていました。側面の建立年や反対の側面には建立者の名前が刻まれている



ようですが、はっきりと読み取れませんでした。

この台地を通る道の三草方面と木梨方面に分かれる所に建てられ、人々は道に迷うことなく往来できたことでしょう。今はその役目を終え、豊かな実りを静かに見守っています。

101. 佐保神社の宮前に道標が復元建立

2015年03月16日



15日(日)、曇り空の下、加東ライオンズクラブの清掃奉仕活動に参加し、ボーイスカウト社第一団のスカウトたちと一緒にゴミ拾いをしました。4斑にわかれて市内の主要道路

沿いに捨てられた空き缶やペットボトルなどを拾って歩いたのですが、私は国道372号の貝原から社市街地を経て市役所までのコースを歩きました。その途中、佐保神社の宮前の瑞神門に通じる参道の角で、これまであった道標のそばにもう一本の道標が新たに建てられているのに気づきました。

根元の土はまだ新しく、最近建てられたものとわかりました。

そして、細長いこの道標は真ん中あたりに接着修理をしたあともあり、これまで参道脇に折れた状態で横倒しに置かれていた道標ではないか、と思いました。修復して再建する話も出ていたので、遂に復活したか、と嬉しくなりました。

横倒しの道標は、このブログで平成21年（2011）12月23日付投稿分で紹介しています。やはり、道標はこうして立っている方がいいですね。

道標には、「右ほつけ山」「左極楽山浄土寺」と刻まれています。

102. 佐保神社参道の2本の道標

2015年03月19日



16日のブログで、佐保神社（加東市社）の参道に道標が復元建立されたことを紹介しましたが、以前から立っている道標と合わせて2本の道標が立っている

霧の朝の風景を紹介します。

交差点に近い方、以前から立っている道標には、「右 きよみず」「左 ほっけさん」と刻まれています。建立年は寛政9年（1797）、約220年も前に建てられた古い道標です。

一方、奥の方の新しく復元された道標には、「右ほつけ山」「左極楽山浄土寺」と刻まれています。

社は、佐保神社の門前町として形成されたと言われていますが、高砂街道と京街道の交わる宿場町として栄えたという話も聞いています。西国巡礼の道筋にあたり、清水寺（加東市平木）と法華山一乗寺（加西市）の間に位置し、二つの霊場の名が刻まれている道標が街道筋に多く見られます。

この交差点は旧国道372号と社の市街地を南北に貫く旧県道が交差する三階交差点の近接し、佐保神社の参道と交差する場所にあり、今も多くの車や人が行き交います。今では巡礼や旅の目印の役目は終わりましたが、歴史を現在、未来に伝える貴重な役割を果たしてくれることでしょう。

写真は復元建立される前、参道脇に倒れていたときのもので、4年前に撮影したものです。下の写真は参道の交差点に立つ2本の道標（現在）です。

103. 天神三叉路に立つ堂々たる道標

2015年04月06日



加東市天神は京街道と大坂街道の分岐点として、古くから多くの人々が往来し宿場町として栄えました。

市街を車で走っていると、木造の旧

上東条村役場の建物がある天神の信号の三叉路の東に立派な道標が立っています（写真）。高さ（約170センチメートル）といい、

深く刻まれた字といい、その堂々たる存在感に思わず惹き付けられてしまいます。

この道標は、文政10年（1827）に建立されたもので、今から188年前の古いものです。道標には「右 大坂兵庫」「左 京きよ水」と太く深く刻まれています。側面には「世話人 都倉七兵衛」と建立人の名前が、そして裏側には「文政十丁亥八月」の建立年と「石工 魚橋 神出左京」と刻まれています。調べてみると、魚橋は高砂市阿弥陀町魚橋だそうです。（『東条の道標巡覧記』）

この道標を紹介するのは2度目です。この三叉路を通る度にその存在感を感じさせてくれる道標に惹かれてもう一度紹介することにしました。いつまでも大切にしたい歴史遺産です。

104. 加古川流域最古の道標—上滝野

2015年07月21日



加東市上滝野に滝野最古の道標が立っています。解説によると、建立は天和2年（1682）で、330年余り前の古いもので加古川流域最古の道標とされています。上滝野の庚申講の人々によって建立されたものです。

道標には「右たんは」「左のま谷」と刻まれており、「のま谷」は西脇市の野間谷のことで、滝野の地が昔から丹波と播磨各地への交通の結節点であったことを示しています。

105. 上滝野の道標—加東四国霊場二番へ

2015年08月07日



加東市上滝野の旧道を車でゆっくり走っていると、電柱のすぐ側に一本の背の低い道標が立っているのに気づき車を止めて見てみました。

もう10年ほど前に一度見た道標のような気がします

すが、道路拡幅か、電柱の移設か何かの工事の関係で移されたのかなとも思いました。

短い道標の上部には手首が彫られ、指をさしています。下部には「加東四」の三文字と「二番」の文字が刻まれているのが見えます。その下は地面で見えませんが、加東四国霊場、二番薬師さんを示す文字が刻まれているのではないのでしょうか。

加東四国八十八ヶ所霊場は大正時代に加東郡（現加東市と小野市域）内に設けられた霊場巡りで、一番は五峰山光明寺の大慈院、二番が上滝野の薬師庵になっています。その巡礼道を指す道標なのでしょう。（※加東四国霊場は四国八十八ヶ所を加東郡に写したもので江戸時代に設けられ、その後大正時代に新たに設けられたもの）

この歴史ブログでもだいぶ以前に一度「ど根性道標」として紹介したことがあります。同じ道標かもしれませんが、こうして今も、これからもそっと、しかし堂々と立ち続けることでしょう。

106. 加東四国霊場のへんろ道の道標―上田地区

2015年08月09日



加東市上田地区の集落の中の道路を走っていると、ふと一本の石柱が目に見え、飛び込んできました。道標だ、と思い、車を止めて近寄ってみると、確かにへんろ道の道標でした。村の中の旧道の分かれ道に立っており、周囲はきれいに草が刈られていました。

道標の正面には、上部に指差しの手が、その下に「へんろ道」「次ハ第三十八番」「施主 田中□」と刻まれています。これは加東四国八十八ヶ所霊場巡りの道標で、三十八番は上田地区にある教王院にあたります。その前の三十七番は野村地区の極楽堂、次の三十九番は同じく野村の小部野（おべの）の西之堂になっています。野村と上田は隣村であり、その巡礼道にこの道標が建てられたのでしょう。

107. 山国の道標―集落内の小径に

2015年08月12日

加東市山国の集落の中の細い道を車で通っていると、分かれ道に道標が立っているのに気づきました。ここに道標があったことは以前から知っていたのですが、すっかり忘れてしまっていました。ひょっとしたら、このブログですでに紹介してきたかもしれませんが、ここにあらためて紹介します。



上部に仏の坐像が彫られ、その下部に「右 浄土寺」「左 神谷山」、中央下部には「中道脇川」と刻まれています。集落の真ん中を分断するように県道が南北に走っていますが、その県道から集落に入って少し行った所に分かれ道に立っています。車一台がやっと通れる細い道ですが、かつてはこの道が主要道だったのか

もしれません。

108. 加東四国第十四番「今寺」への道標

2015年10月23日



秋の日差しがまぶしい午後、加東市秋津の県道小野藍本線、西戸地区の集落を過ぎて走っていると、左の山側の道沿いに一本の道標が立っているのが目に飛び込んできました。

ここから先は道幅も狭くなり、大川瀬溪谷を右の崖下に見ながら三田市境へと入っていきます。加東四国八十八ヶ所霊場の第十四番、今寺への道を示す道標でした（写真）。

上部に仏の坐像、下部に「四国八十八ヶ所巡拝」「右 相野」「左 今寺」と刻まれていました。側面には明治三十八年八月二十八日の建立年が刻まれています。

「本郡鬼門の守護の神 今寺毘沙門十四番」と加東郡霊場和讃に詠われる今寺（吉祥寺）への道を示しています。御詠歌は「今寺や 今もむかしに変わりなく 朝夕涼し 松風の音」と八十八箇所巡拝帳に記されています。



写真は（一般社団法人）加東市観光協会が今年発刊した「平成の加東四国八十八箇所巡拝帳」です。和讃、御詠歌が印刷されています。2000円で発売され、すでにこの巡拝帳を持って八十八箇所を全部回った人もおられると聞きました。巡拝帳は加東市河高の県道沿いの河高交流プラザの観光協会で購入できます。

109. 西戸(秋津)の道標—山田錦の里に立つ

2015年10月30日



加東市秋津の西戸公民館から北の山、ゴルフ場へつながる道路を少し走ったところの分かれ道の田圃の畦に二本の石柱が立っていました。

畦の草がきれいに刈られていたのでよく目立ちます。車を降りて見てみると、道標です。しかし、字がよく読めません。「西国供養」「四國」「右」「天保」「文政八酉三」などの文字がかろうじて読めました。今からおよそ170～190年前に建立されたもののようです。

近くにある今寺や清水寺への遍路道を示す道標だったのでしょう。今は秋の穫り入れを静かに見守っているようでした。

110. 加東市横谷の道標—元は旧道沿いに

2016年01月17日



加東市横谷を走る県道西脇三田線の脇に道標が立っています。

『東条の道標巡覧記』によれば、明治22年に建立されたものらしく、表面は風化して判読が難しい状態になっていました。また、この道標は元は旧道に立っていたもので、車が当たるなどして折れたものをモルタルで修復してありました。地元の元

区長さんは「自分が修理した」と話されていました。

旧道は大坂道にあたり、社町から東条通って大阪へ出る道筋だったそうです。今は県道沿いの一本の低い木の根元に移設され、通り過ぎていく自動車を見つめています。

111. 木梨の道標—2本並んで

2016年01月18日

加東市木梨地区の旧道を走っていると、公民館からさらに北のカーブのところに2本の道標が並んで立っているのが目に止まりました。この場所には、以前は確か、1本だけだったはずなのにといい、車を止めて近づいて見ると、1本は以前に見たもののようで、もう1本はつぎはぎの修復のあとがある少し大きい道標で



した。

元からの道標は、建立年は嘉永元年（1848）、「右 いせ 笹山 古市」「左 ほっけさん ひめじ」と刻まれています。以前は下部が金物で補強されていたが、今は金物はなくなっ

ています。

もう1本には、「右 きよ水」と刻まれ、「左」の下は判読が難しい状態でした。いつ再建されたのか分かりませんが、こうして2本の道標が旧道に修復されたことは素晴らしいことだと嬉しくなりました。

※2007年3月に木梨の道標を投稿しています

112. 紀元2541年の道標―「多可郡丹波道」

2016年02月01日



以前に加東市立加古川流域歴史民俗資料館（加東市下滝野）の前庭に置いてある道標のことを紹介したことがありました（平成27年11月17日投稿）。

今日、隣の滝野公民館を訪れた時、資料館と駐車場の間の草が刈られており、道標がよく見える状態になっていました。以前は、木の枝や雨の滴でよ

く見えませんでした。今日は「右 多可郡丹波道」、「紀元貳千五百四十一年」の文字がはっきり見えました。それに、おそらく地中部分になるところが、地表の倍以上あることもわかりました。写真の左側手前の太くなっている部分が地中に埋められる根にあたる部分です。「紀元貳千五百四十一年」は「皇紀2541年」のことです。すなわち明治14年（1881）の建立ということです。

「番外編」

福田橋記 加東大橋開通他

1. 『道標巡覧記』 — 貴重な地域史研究

2008年05月31日



神戸新聞 5月9日付北播版に『東条の道標歩いて調査』『巡覧記を出版』という見出しの記事が掲載されている。紹介された「東条の道標巡覧記（めぐりき）」は、「東条の歴史を掘り起こそう会」が旧東条町内に残っている道標をくまなく調査してまとめた研究誌である。

今、手元にその『巡覧記』がある。

A4判205ページの冊子。「掘り起こそう会」の中心、邦近さんから編集発刊に至るこれまでの調査研究のお話を聞かせていただいた。また、もうお一人の飯尾先生には、やしろ歴史民俗の会で「埴鹿里散歩」という題で東条の歴史、道標などのお話を聴かせていただいたことがある。このお二人は、去年の秋、とどろき荘で東条の歴史の展示発表をされた時にも懇切に説明をしていた。

私が道標に興味関心を抱くようになったきっかけは、社の故・

上月輝夫先生から道標についてのお話を伺ってからである。その後、平成18年度に滝野東小学校で総合学習を担当し、ふるさとの歴史学習の教材研究のために校区内を調査するなかで、道標や道路元標との出会いがさらに想いを強めることになった。

今では、市内を車で走る際に目にとまった道標を記録し「ふるさと加東の歴史再発見」と題したブログで紹介し続けている。そんなことから、今回、『東条の道標巡覧記』が発刊されたことを知り、早速邦近さんをお訪ねしたという具合である。

巡覧記によれば、道標はじめは棒杭、江戸中期から石造へと変化していったらしい。市内の古い道標はやはり江戸中期のものだ。そして寺社巡礼道や街道の分岐点に建てられたものだが、道標のある道は昔から多くの人々が往来したことを今に伝えるものである。今は村中の細い道だが、かつては人は勿論物資や文化が往来した幹線道。京街道、大阪道、高砂街道、巡礼道……。道標をながめていると往時のにぎわいが彷彿として浮かんでくる。今は斜めに傾いたり、道路工事で向きが変わっていたり、アスファルトで半分埋まっていたりと往時のままではないが、踏ん張って歴史を伝えてくれている。アスファルトを破って成長した大根が人気者になったが、私は道標にこそそんな根性、元気を感じる。

地域の歴史を掘り起こすという作業は、地域の過去の記憶を蘇らせるということであり、この地域に生きる私たちの根の部分を知ることでもある。根が痩せれば地上部分も衰える。根がしっかりすれば元気が出る。植物も人間も同じだと思っている。地域史研究の意義はそこにあるのではないだろうか。『巡覧記』の道標の項を読みながらそんなことを思った。

2. 西国巡礼の旧道に肥後国天草の行き倒れ者の墓

2015年04月12日



11日（土）、県民交流広場の三草ふれあい広場が主催するワクワク探検に参加しました。今回は昭和池の見学が主でしたが、出発点のやさろ国際学習塾から池まで旧道を歩きました。この道は都と播磨を結ぶ京街道で西国三十三番霊場の巡礼の道でもありました。途中、上三草と山口の村境あたりの道の側にある西国巡礼で行き倒れとなった人の墓を見

学しました。ブロックで囲まれた一角の中に2基の墓石がありました。

表面には次の字が刻まれていました。

文化七年四月	肥後国天草郡大矢野	教良木村俗名□□
文化七年五月四日	肥後国天草郡大矢野	教良木村俗名□□

文化7年は西暦1810年にあたり、今から205年前になります。天草郡大矢野の地名は今もあるということだったので調べてみると、現在の熊本県上天草市松島町教良木の地名がありました。

昨年のワクワク探検でも行き倒れ者の墓を見学しましたが、当時は旅も命がけのことだったんですね。

3. 福田橋の碑—今加古川の堤防下に

2011年12月21日



昨日、郷土史に詳しい佐保神社宮司の神崎壽福さんから福田橋の碑文のことを聞き、早速石碑を見に行きました。加東市野村の加古川の堤防のすぐ下に石碑がありました。「福田橋之記」との題と碑文が刻まれていました。

『加東郡誌』に碑文が記されているということだったので読んでみると、明治15年（1882）、加東

郡民の建議によってこの地に橋が架けられることになり、翌明治16年に完成したという経緯が書かれていました。この碑文が福田橋の橋詰に建立されたもので、碑文を書いたのは当時の加東郡長だった河合半介（かわいはんかい）です。

当時は三等県道だったこの道は現在国道372号となり、バイパス工事が進んでおり「加東大橋」の偉容を望むことができます。開通にはもう少し時間がかかりますが、この地が播磨と京都を結ぶ新たな大動脈として鼓動を始めようとしているのを感じます。

この地に橋を架けるという加東郡民の願いが実現した福田橋の完成を記念して建立された「福田橋之碑」を加東大橋の橋詰に置いて、この橋を通る人々に歴史を永く伝えたい、そんな思いにかけられました。

4. 福田橋之記を貴重な歴史遺産として

2011年12月22日



昨日、加東市野村の加古川堤防の下にある福田橋之記の石碑のことを紹介しましたが、『新修加東郡誌』を読んでもみると現在の福田橋は三代目のものということを知りました。

一代目が明治16年(1883)年、二代目が大正3年(1914)、三代目は昭和31年(1956)に架けられています。位置は野村と対岸の安取を結ぶ線から次第に上流に移っています。128年前、97年前、そして55年前に建設されたということになります。江戸時代には渡し船、そして明治に入って橋が架けられ、さらに自動車などの陸上交通の発達とともに堅固な橋に架け替えられていったということです。

そして、今、国道372号野村河高バイパスの建設によって福田橋のすぐ下流に巨大な加東大橋が建設されています。現在の福田橋は残るわけですが、初代の福田橋の架橋を記念して建立された福田橋之記の碑をぜひ貴重な歴史遺産として未来に伝えていきたいとの思いを強くしました。

5. 歴史遺産「福田橋の記」が明日開通の加東大橋に

2012年12月01日

明日12月2日(日)、国道372号野村河高バイパスが開通します。そして、加古川には福田橋の少し下った場所に新しく加



東大橋が架けられました。

ところで、加東大橋は初代の福田橋から数えて4代目にあたる新橋となります。以前にこの歴史ブログで紹介した「福田橋の記」の

石碑がその歴史を伝えています。今回の新橋架設を記念にそのたもとにこの「福田橋の記」碑を移設し歴史を伝えることになったものです。

この「福田橋の記」は、この地に橋を架けるという明治時代はじめの加東郡民の願いが実現した福田橋の完成を記念して建立されたものです。記によると、江戸時代には渡し船で川を渡っていたのですが、明治15年（1882）、加東郡民の建議によってこの地に橋が架けられることになり、翌明治16年に完成したという初代福田橋架橋の経緯が書かれています。碑文を書いたのは当時の加東郡長だった河合半介（かわいはんかい）です。

当時は三等県道だったこの道は現在国道372号となり、バイパス工事が進められてきました。福田橋も一代目が明治16年（1883）年、二代目が大正3年（1914）、三代目は昭和31年（1956）に架けられています。位置は野村と対岸の安取を結ぶ線から次第に上流に移っています。そして、遂に4代目の福田橋として「加東大橋」が完成、明日開通ということになりました。

この地が播磨と京都を結ぶ新たな大動脈として動き出すのです。

その歴史を伝える貴重な歴史遺産である「福田橋の記」が橋詰に移設され、解説パネルも設置されて橋を訪れる多くの人に読んでもらえることが出来るようになりました。この国道を管理する兵庫県加東土木事務所はじめ関係各位のご尽力に感謝しつつ、一足早く紹介します。

6. 加東大橋―建設常任委員会管内調査

2012年08月03日



2日（火）、県議会建設常任委員会が管内調査ために北播磨を訪れ、管内の2ヶ所で現地調査、県民局での事務調査を行った。地元議員として、加東大橋（国道372号の野村河高バイパス）の工事現場での調査、県民局での加東土木事務所、企業庁情報公園建設事務所の調査に出席した。

加東大橋での調査は橋梁上で行われた。これまでは遠くから、あるいは下からしか見ることができなかった加東大橋の上に初めて立つことができた。感想は、まず高い。加古川の水面までの高

さは相当ある。大きな鯉がゆうゆうと泳いでいるのが見えた。次に眺めがよい。遠く六甲連山、中国山地、播磨平野が一望できる。景色がよすぎて運転の方が心配になる。このバイパス工事はＪＲ加古川線の跨線橋、加古川に新橋の架橋、そして取り付け道路など複雑な工事が含まれている。現在の福田橋は狭く大型トラックやバスがすれ違うのも大変。社町駅からの道路との交差点の混雑などの問題を解決するための工事がようやく完成に近づき、この秋の終わりの頃の供用開始をめざして工事が進められている。

加東大橋は初代の福田橋から数えて４代目にあたる。明治１０年代の半ばまで渡し船によっていたが、初めて橋が架けられた。その記念碑があり、今回の加東大橋の完成を期に後世に伝えるためにもきちんと整備しておくべきだと言ってきた。道路や橋には人・物・文化の流れと物語がある。これを時代、時代にきちんと記録し伝えていくことで共通の資産としての価値、意識が生まれると思う。それにしても調査のためだが、初めて大橋をわたることができて今日は感動だった。

7. 祝加東大橋開通！

2012年12月03日



2日（日）、加東市を流れる加古川の歴史に新しい一頁が加わりました。国道372号野村河高バイパスが開通し、新しく加東大橋が架けられたのです。前回投稿のブログで紹介したとおり、江戸時代には野村と対岸の安取の間に渡し船が往来していました。それが明治時代になり交通の発展を願い、福田橋が架けられたのですが、これが初代、次に大正3年、さらに昭和31年に現福田橋が架けられ今も毎日多くの車両が往来しています。加東大橋はいわば4代目の福田橋ともいえます。

初代から約130年目の加東大橋の開通という歴史的な日が今日だったのです。眺望がよいので夏には夕涼みもいいかもしれません。これからの早朝には霧もかかるでしょう。写真はその東詰の橋名板です。

8. 久保木橋を今に伝える親柱

2008年04月18日



3月25日、加東市の東古瀬保育園の卒園式に出席したあと、うららかな陽気に誘われ、隣の八坂神社に参拝し、さらに田圃の中の道を南に向かって車を走らせるとその先は東条川。その道の向こう、川に落ちる手前に一本の石柱が立っているのが目に入ってきました。

道標がそんなところにあるはずもないし、気にかかり車を降りて川に向かって歩いていくと、字が刻まれています。えっ、道標？

石柱には「久保木はし」「昭和三十七年」と刻んでありました。

ひょっとして橋の親柱、そして橋名か。こんなところに橋があったのか？

近くにおられた方にこの石柱のお話を聞くことができました。

石柱は刻んである通り、かつてこの東条川に架かっていた「久保木橋」の親柱のうちの一本でした。現在は少し上流に新しい橋が架かっていますが、昔はこの場所から川の中州を経て向こう岸の久保木（現：小野市久保木）に通じていたということでした。

9. 鴨川の起点標識—加東市上鴨川

2015年12月28日



加東市上鴨川、中心部の集落の中の旧道を通っていると、小さな橋にさしかかりました。橋の手前右手に一本の標識が建てられています。石のように見えますが、コンクリートのようです。

「兵庫県」「一級河川 鴨川起点」という文字が刻まれていました。目の前の小さな川が鴨川の上流で、この地点が起点になっているということです。よく通る道で、この標識も見えていましたが、あらためて紹介します。

鴨川は上鴨川の集落のさらに上流の貯水池から流れ出て、上鴨川、下鴨川を流れて、東条湖に注いでいます。東条湖は鴨川に造られたダムによってできたダム湖です。鴨川ダムができる前は土井の集落を流れ、黒谷、古家から東条川に合流していました。東

条川は兵庫県最長の一級河川である加古川の支流です。鴨川はその支流です。

道路の起点となる道路元標は道路沿いに建てられているので目にすることがありますが、河川の起点を間近かに見ることができて何か嬉しくなりました。

10. 加西市別府交差点の道路元標と道標

2015年09月04日



3日、用事のために車で加西市へ向かっていると、交差点の信号脇に道標らしき石柱が4本並んでいるのに気がつきました。こんなところにあったかな、とすぐにでも車を降りて見てみたくなり

ましたが、信号が変わり、発進。帰りに見ることにしました。

場所は加東市高岡から372号を右折し、加西市北条へと通じる県道高岡北条線を走って県道高砂加古川加西線と交わる加西市別府の交差点でした。北東隅の信号脇に道路に面して4本の石柱が並んでいます。よく通る道なのに、これまでなぜ気が付かなかったのか不思議です。

帰りに車を止めて見てみました。一本はその形からすぐ道路元標だとわかりました。表面の字は読み取りにくくなっていますが、富合村道路元標と刻まれていました。道路元標は大正8年の各市町村の道路の起点を示す標識として建てられたものです。

3本の石柱は道標です。上部に仏像、下部に字が刻まれています。3本のうち、真ん中の1本は上部が欠けています。「左 大門 小野」、「高砂」などの文字が読めました。

道路を走っていると、時々こうした道標と出会うことがあります。今ではその役目は終えていますが、かつて多くの人々がこの道標を目印にしながら往来し、祈りや商いをしていたことでしょう。それにしても今までなぜ気がつかなかったのか、不思議です。

11. 福島市の道路元標

2015年07月12日



10日（金）の早朝、福島県の県庁所在地である福島市の街を歩いていると、目に入ったのがこの道路元標でした。

道路元標は大正8年（1919）に道路法で各市町の道路の基点となる

目印（石碑）が設置されました。加東市内にも旧町村の道路元標があり、この歴史ブログで紹介してきました。よその街を訪れた折には、早朝ウォーキングを楽しむことにしていますが、道路元標に出逢ったのは初めてのことでした。

元標の隣には、その由来を記した銘板が設置されていました。街、道路の歴史を伝える貴重な歴史遺産である道路元標。

(補)

※県政シリーズⅡ「終戦70年—慰霊を考える」に収録できなかった、松沢地区の忠魂碑と河高地区の戦没者墓地进行掲載しました。

1. 松沢地区の忠魂碑

2015年08月04日



3日(月)の午後、加東市松沢の公民館のある丘の中腹にある忠魂碑を訪れました。以前から地区の親しい方から「松沢には立派な忠魂碑がある」と教えていただいていたのですが、ようやく訪れること

ができました。

坂道の途中、右手のに墓地があり、その奥まった一角に忠魂碑があります。碑の側面に「昭和三十三年十二月 松澤部落建立」と刻まれていました。正面には「忠魂」の文字が刻まれています。裏面には9柱の英霊の戒名と俗名が刻まれていました。その下部には、「碑銘 藤原優」はじめ、石匠、工事員の名前が刻まれていました。

毎年、松沢地区の皆さんによる慰霊祭が行われていると伺いました。

2. 河高の戦没兵士墓地と英霊塔

2015年08月14日



加東市河高の滝野総合運動公園に隣接する一角に河高地区の共同墓地があります。以前からこの墓地にある戦没者墓地のことを聞いていたので訪れました。

墓地は東向きの広い傾斜地に整然と墓石が並び、ちょうどお盆の墓参りの家族連れの姿がありました。小雨が降る中、駐車場に車を止めて中に入ると、正面右の広い一角に戦没者墓地がありました。中央入口に石鳥居が立っているのでこの一角が特別な場所であることがすぐに分かります。中央に英霊塔が立ち、その周囲を戦没兵士の墓が囲むように並んでいます。忠霊塔は昭和26年9月に建立されたものです。正面左には、3本の石碑が立っており、右から建碑記念碑、南無阿弥陀仏と刻まれた石碑、歌碑の自然石でした。歌碑には英霊の御霊安かれと祈る歌が刻まれていました。終戦70年の今年、8月15日の終戦の日が近づいています。



◆著者紹介

藤本 百男 ふじもと ひやくお

- 昭和28年10月31日 兵庫県加東郡社町社生（現加東市社）
- 兵庫県立社高等学校、早稲田大学法学部卒業
- （国公立学校教員）兵庫県教育大学附属小学校、同附属中学校教諭（社会科）
兵庫県加古川市立小学校、滝野町立滝野東小学校教諭
- 神戸商科大学・兵庫県立大学非常勤講師（兼職）
- 兵庫県教育大学大学院修士課程修了（教育学修士）
- 社町史編纂委員
- 平成19年4月 兵庫県議会議員初当選
農政環境常任副委員長、総務常任副委員長
- 平成23年4月 兵庫県議会議員2回目当選
自民党県議団副政調会長、副幹事長、文教部会長
健康福祉常任委員長
- 平成27年4月 兵庫県議会議員3回目当選
文教常任委員長 自民党県議団文教部会長
- 自民党加東市支部支部長、日本会議兵庫北播磨支部支部長
加東軟式野球協会会長、兵庫県釣針協同組合顧問
県立社高等学校尚友会会長、兵庫県ソフトボール協会会長等

県政資料 ふるさと加東の歴史再発見シリーズ Ⅲ

ふるさと加東の道標・道路元標

— 道標からふるさとの「道」の歴史を考える —

発行日 平成28年3月吉日

著 者 兵庫県議会議員 藤 本 百 男

発行所 藤本百男事務所

〒673-1431 兵庫県加東市社1491-1

TEL(0795)43-8270 FAX(0795)27-7221

印刷所 株式会社吉本宝文堂

〒675-1343 兵庫県小野市来住町883-2

TEL(0794)63-4011 FAX(0794)62-5252

非売品